既婚者の結婚観と結婚過程
――広島県東広島市におけるアンケート調査の結果から――

材　木　和　雄

1．問題設定

日本の婚姻の動向をみる上で重要な資料を提供する全国規模の調査が二つある。一つは総務省の「国勢調査」であり，もう一つは国立社会保障・人口問題研究所の「出生動向基本調査」である。両者はともに５年ごとに実施されるが，2010年の調査結果が最近公表された。始めにこれを用いてこの５年間の変化を確認しておきたい。

まず国勢調査の結果から算出された2010年の未婚率を年齢別にみると，2005年に比べると男女ともに25－29歳の未婚率は微増にとどまった（表１－１，表１－２）。30－34歳の未婚率は男性ではほとんど変化がなく，女性でも2.5％の増加にとどまった。男女ともに若年層の未婚率の上昇には頭

表１－１　男性の年齢階級別未婚率の推移（1990年－2010年）

年　齢	1990	1995	2000	2005	2010
20-24	93.6	92.6	92.9	93.4	94.0
25-29	65.1	66.9	69.4	71.4	71.8
30-34	32.8	37.3	42.9	47.1	47.3
35-39	19.1	22.6	26.2	30.0	35.6
40-44	11.8	16.4	18.7	22.0	28.6
45-49	6.8	11.2	14.8	17.1	22.5
50-54	4.4	6.7	10.3	14.0	17.8
55-59	3.0	4.3	6.1	9.8	14.7
60-64	2.0	2.9	3.9	5.8	10.3
65-69	1.4	1.9	2.6	3.7	6.1
生涯未婚率	5.57	8.92	12.35	15.65	20.15

資料：総務省『国勢調査報告』

表１－２　女性の年齢階級別未婚率の推移（1990年－2010年）

年　齢	1990	1995	2000	2005	2010
20-24	85.0	86.4	88.0	88.7	89.6
25-29	40.4	48.0	54.0	59.0	60.3
30-34	13.9	19.7	26.6	32.0	34.5
35-39	7.5	10.0	13.9	18.4	23.1
40-44	5.8	6.7	8.6	12.1	17.4
45-9	4.6	5.6	6.3	8.2	12.6
50-54	4.1	4.5	5.3	6.0	8.7
55-59	4.2	4.1	4.3	5.2	6.5
60-64	4.2	4.1	3.9	4.2	5.5
65-69	3.4	4.2	4.0	3.8	4.5
生涯未婚率	4.33	5.08	5.80	7.05	10.65

資料：同上。

打ちの兆しが見られる。しかし，男女ともに35歳以上の層では未婚率は顕著な増加を見せている。そのため，男女ともに30歳代と40歳代の未婚率は過去最高を更新した。未婚率は男性の30歳代で41.5%，40歳代で25.6%，女性の30歳代で28.8%，40歳代で15.0%である。50歳時点での平均未婚率を指す「生涯未婚率」も男性20.15%，女性10.65%と2005年に比べ男女ともに大幅に上昇した。したがって，総体的には未婚化の進展には歯止めがかからない状況が続いている。

次に2010年に実施の「第14回出生動向基本調査」の結果では，「一生結婚するつもりはない」と回答する未婚者が５年前と比べて増加し（男性9.4%，女性6.8%），「非婚」を志向する若者が増えていることが注目される。しかし，「いずれ結婚するつもり」と回答する未婚者は男性86.3%，女性89.4%と圧倒的多数を占めることには変化はない（表１－３）。しかも，「いずれ結婚するつもり」と答えた未婚者の中では「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」の割合が減少し，「ある程度の年齢までには結婚するつもり」の割合が増加し，過半数を超えている。この傾向は女性でとくに顕著である（表１－４）。さらに報告書によると，結婚する意思をもつ未婚者の中では「一年以内に結婚する意欲のある者」が５年

前に比べてわずかながら増加し（男性42.1%→43.3%，女性50.1%→53.3%），また「まだ結婚するつもりはない」とする未婚者の割合も微減しており（男性56.0%→55.5%，女性48.8%→45.6%），それだけ「結婚を先延ばししようとする意識が薄らいでいる」ことが指摘されている（国立社会保障・人口問題研究所，2011ｂ）。

表１－３　調査年別にみた未婚者の生涯の結婚意思

男性

生涯の結婚意思	1987	1992	1997	2002	2005	2010
いずれ結婚するつもり	91.8	90.0	85.9	87.0	87.0	86.3
一生結婚するつもりはない	4.5	4.9	6.3	5.4	7.1	9.4
不　詳	3.7	5.1	7.8	7.7	5.9	4.3

女性

生涯の結婚意思	1987	1992	1997	2002	2005	2010
いずれ結婚するつもり	92.9	90.2	89.1	88.3	90.0	89.4
一生結婚するつもりはない	4.6	5.2	4.9	5.0	5.6	6.8
不　詳	2.5	4.6	6.0	6.7	4.3	3.8

資料：国立社会保障・人口問題研究所（2011ｂ）

表１－４　調査年別にみた結婚意思をもつ未婚者の結婚に対する考え方

男性

結婚に対する考え方	1987	1992	1997	2002	2005	2010
ある程度の年齢までには結婚するつもり	60.4	52.8	48.6	48.1	51.9	56.9
理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない	37.5	45.5	50.1	50.5	46.7	42.4
不　詳	2.1	1.6	1.3	1.4	1.3	0.7

女性

結婚に対する考え方	1987	1992	1997	2002	2005	2010
ある程度の年齢までには結婚するつもり	54.1	49.2	42.9	43.6	49.5	58.4
理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない	44.5	49.6	56.1	55.2	49.0	40.5
不　詳	1.3	1.3	1.1	1.3	1.4	1.1

対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた18-34歳未婚者
資料：同上。

以上の二つの調査結果が指し示すことは，結婚を望まない傾向，つまり「非婚化」の傾向も一部の若者の間で強まっているが，全体的には結婚の意思や希望をもちながらも結婚を実現できない状況，つまり「結婚難」が依然として続いていることである。

かつての日本には大多数の若者が結婚していた時代があったが，現在ではこのように著しく未婚化が進み，結婚難の時代が到来している。その原因は何か。社会学者の研究の中では二つの有力な説明がある。その一つは，独身男女の出会いを促進し，彼らを結婚へと導いていた社会システムの衰退と機能の消失が未婚化の進行を促進したと結論する。その社会システムとは「見合い結婚」と「職場や仕事での関係に基づく結婚」（より端的に言えば，「職場結婚」ないし「社内結婚」）のシステムである[1]。

もう一つは経済的要因，とくに所得水準を重視した説明である。日本では女性は結婚相手となる男性に一定水準の経済力を求め，男性の側でも結婚で新しく家族を形成する場合には家計の主要な支え手にならなければならないという意識は強い。ところが，ここ20年来の経済成長の停滞とグローバル化が進む中での経済変動に対応するため，企業や事業所は雇用の柔軟性を高めてきた。そのため，雇用労働者に占める正規雇用者の比率が低下する一方で非正規雇用者の比率が著しく上昇した。とくに若年世代の間で不安定な仕事に従事し，低収入の者が増えた。また正規雇用者の雇用も相対的に不安定化し，賃金も伸び悩むようになった。その結果として，女性の期待水準に見合う経済力を有する男性はどんどん少なくなり，男女ともに結婚を実現することが困難になった[2]。

前者の説明は長期の時間的スパンで日本の未婚化の進展を説明する仮説であるが，最近の議論では後者の説明が興味深いデータを根拠として強調されている。たとえば，山田昌弘は未婚男性の実際の年収分布と未婚女性が結婚相手に期待する年収分布との間に大きなギャップが存在することを25－34歳の若者を対象とした調査によって明らかにし，未婚女性が望む経済力を有する同世代の未婚男性が現実には非常に少ないことを裏付けた（表１－５）[3]。

表１－５　未婚男性の年収の分布と未婚女性が結婚相手に求める収入の分布

青　森	未婚男性の年収	200万円以下 (47.9%)	200-400万 円 (49.6%)	400-600万 円 (1.7%)	600万円以上 (0.9%)
	未婚女性が男性に期待する年収	こだわらない (30.5%)	200-400万 円 (16.1%)	400-600万 円 (39.8%)	600万円以上 (13.6%)
東　京	未婚男性の年収	200万円以下 (33.8%)	200-400万 円 (43.2%)	400-600万 円 (19.5%)	600万円以上 (3.5%)
	未婚女性が男性に期待する年収	こだわらない (29.7%)	200-400万 円 (4.3%)	400-600万 円 (26.8%)	600万円以上 (39.2%)

原資料：『若者の将来設計における「子育てリスク」意識の研究』，2004年
出所：山田昌弘（2004），p.23。

もっとも，これは未婚女性の年収期待によって想定された独身男女の需給の不均衡である。それは未婚者の実際の結婚行動を調べた結果ではないため，これだけでは所得水準によって結婚難が発生していると結論することはできない。しかし，実際にも所得水準によって結婚の実現可能性に格差が生じていることがいくつかの調査データによって示唆されている。その一つは厚生労働省が2002年から毎年実施しているパネル調査（「21世紀成年者縦断調査（国民の生活に関する継続調査）」）の結果である。たとえば，2009年に実施された第８回調査の結果では，2004年からの５年間の結婚の実現状況をみた場合，男女ともに所得額が高くなるほど結婚した割合が高くなる傾向が示されている（表１－６）。とくに男性では所得のもっとも低い「100万円未満」では結婚した者は12.5%にとどまるが，「400－500万円」では結婚した者は32.6%であり，20.4ポイントの差があった。

もう一つは2010年に全国各地の20－30歳代の未婚男女および結婚３年以内の男女を対象に内閣府が実施した調査（「結婚・家族形成に関する意識調査」）の結果である[4]。それによると，男性の場合，年収300万円未満の層では結婚している者の占める割合は20歳代で8.7%，30歳代で9.3%であり，それぞれ10%以下であった。ところが，年収300－400万円の層になると，既婚者の割合は大きく増えて，20歳代で25.7%，30歳代で26.5%であった。以下，年収額が増えるにつれて，20歳代，30歳代ともに既婚者は増える傾向がある。しかし，年収300万円未満と年収300万円以上を比べると既婚率

表１－６　所得額階級別にみた５年間（2004-2009年）の結婚の状況

		男性			女性		
		総数	結婚した	結婚していない	総数	結婚した	結婚していない
所得額	総数	(100.0) 100.0	23.1	76.9	(100.0) 100.0	29.6	70.4
	100万円未満	(10.6) 100.0	12.2	87.8	(11.5) 100.0	22.9	77.1
	100-200万円	(8.9) 100.0	15.5	84.5	(20.5) 100.0	29.3	70.7
	200-300万円	(20.0) 100.0	21.1	78.9	(29.7) 100.0	30.7	69.3
	300-400万円	(25.9) 100.0	24.3	75.7	(19.2) 100.0	32.0	68.0
	400-500万円	(13.9) 100.0	32.6	67.4	(7.6) 100.0	35.6	64.4
	500万円以上	(11.3) 100.0	29.6	70.4	(4.9) 100.0	28.8	71.2

注：１．集計対象は2004年の第３回調査時に独身で2009年の第８回調査まで継続的に回答を得られている者。
２．所得額は「結婚した」は結婚前調査時の状況，「結婚していない」は第７回調査時の状況。
３．「結婚した」にはこの５年間に結婚した後離婚した者を含む。
４．５年間で２回以上結婚している場合，最新の結婚の状況について計上している。
５．所得額の「100万円未満」には所得なしを，総数には所得不詳を含む。
出所：厚生労働省（2011）

表１－７　年収別の婚姻・交際状況

性	年代	年収額	既婚	恋人あり	恋人なし	交際経験なし
男性	20代	300万円未満	8.7	25.3	30.4	35.5
		300-400万円	25.7	35.4	25.2	13.8
		400-500万円	36.5	28.8	28.2	6.4
		500-600万円	39.2	18.0	38.2	4.6
		600万円以上	29.7	38.9	26.6	4.8
		小計	18.9	28.6	28.9	23.6
	30代	300万円未満	9.3	18.4	38.8	33.6
		300-400万円	26.5	20.7	34.4	18.3
		400-500万円	29.4	20.6	37.2	12.9
		500-600万円	35.3	21.8	31.6	11.3
		600万円以上	37.6	22.9	29.8	9.6
		小計	23.3	20.2	35.7	20.8
女性	20代	300万円未満	25.7	34.6	24.3	15.4
		300-400万円	16.2	49.4	27.5	6.9
		400-500万円	22.7	41.0	30.1	6.3
		500-600万円	32.9	51.6	15.5	0
		600万円以上	34.0	46.6	19.4	0
		小計	24.4	37.1	24.8	13.7
	30代	300万円未満	35.7	20.4	32.4	11.4
		300-400万円	17.1	35.3	39.4	8.3
		400-500万円	20.0	36.6	36.8	6.7
		500-600万円	23.0	39.5	33.5	4.0
		600万円以上	16.3	39.1	39.6	5.0
		小計	30.0	25.7	34.3	10.0

注：対象は職業が「学生」，年収が「わからない」者を除く。
出所：内閣府（2011），p. 15.

に大きな差が出ている[5]。男性の年収300万円未満では結婚している者が少ないだけでなく，異性との交際状況もきわめて低調であった。たとえば，異性との交際経験がない者は20歳代で35.5%，30歳代で33.6%を占め，年収300万円以上の層と比べると際だって大きな割合を示している（以上，表１－７）。

雇用形態別にみても男性の場合には「正規雇用」と比べると「非正規雇用」には既婚者が少なく，異性との交際状況が低調であった。たとえば，男性の正規雇用では既婚者は20歳代で25.5%，30歳代で29.3%であるが，非正規雇用ではそれぞれ4.1%，5.6%と非常に少なく，正規雇用と比べて大きな開きがある。また「恋人なし」と「交際経験なし」を合計した割合は正規雇用では20歳代で41.0%，30歳代で49.4%であるが，非正規雇用ではそれぞれ79.5%，80.7%と非常に高い割合を示している。男性の非正規雇用では実に８割が「恋人なし」または異性との「交際経験なし」であった（以上，表１－８）[6]。

表１－８　雇用形態別の婚姻・交際状況

性	年代	雇用形態	既　婚	恋人あり	恋人なし	交際経験なし
男性	20代	正規雇用	25.5	33.5	27.4	13.6
		非正規雇用	4.1	16.4	38.5	41.0
	30代	正規雇用	29.3	21.3	33.7	15.7
		非正規雇用	5.6	13.8	43.8	36.9
	男性計	正規雇用	27.5	27.2	30.6	14.7
		非正規雇用	4.7	15.3	40.7	39.3
女性	20代	正規雇用	8.8	50.2	30.6	10.3
		非正規雇用	16.9	32.5	29.4	21.2
	30代	正規雇用	15.5	35.6	40.1	8.8
		非正規雇用	18.1	28.3	40.7	12.9
	女性計	正規雇用	11.4	44.6	34.3	9.8
		非正規雇用	17.4	30.7	34.2	17.7

注：「既婚」は結婚前の職業，その他の交際状況は現在の職業の雇用形態。
出所：内閣府（2011），p.14

この調査は若年層男女の年収，雇用形態と結婚・交際状況との関係をストレートに調べて，わかりやすいデータを示している。マスコミの報道でも注目すべき調査結果として取り上げられ[7]，大きな反響を呼んだ。とくに人びとの関心を集めた点は，男性の場合に「年収300万円」が「結婚できるかどうかの境界線」を形成しているように見えることである。年収は雇用形態と関連しているので，「非正規雇用」ではこの境界線を超える年収を得ることができない[8]。年収や働き方による格差が若年層の結婚難をもたらしていることは以前から指摘されていたことであるが，このことをより明確に裏付けるデータとしてこの調査結果は注目されている。

一人暮らしや親元での生活に別れを告げ，独立した結婚生活を営むには相応の稼ぎが必要である。子どもをもつと子育てや教育のための費用は年々大きくなる。豊かな時代に育った若者が結婚生活において一定の高さの生活水準を求めるのは当然である。経済情勢や雇用環境が厳しくなる中で結婚に際しても若者ができるだけリスクを小さくしようとすることも肯ける。それゆえ，未婚女性が結婚相手となる男性に「一定水準の経済力」を求め，男性の側もある程度の経済力がないと「結婚の資格がない」と考えてしまうことも理解できることである。多くの若者にとって不安定な雇用形態や低収入が結婚の障害の一つになっていることは否定することができない事実であろう。

そのことを認めた上での話であるが，次のような疑問を提起したい。年収が多くなれば結婚できるのか。正規雇用なら結婚できるのか。このような疑問を抱いて上記の内閣府調査の結果を見直すと別の様相が見えてくる。たとえば，年収別の婚姻・交際状況（表１－７）をみると，男性の20歳代では年収が「300万円以上」であっても各層ともに６割以上は未婚であり，「恋人なし」または「交際経験なし」がもっとも少ない層で３割（「600万円以上」），もっとも多い層で42.8％（「500－600万円」）も存在する。男性の30歳代でも各層ともに６割以上が未婚であり，「恋人なし」または「交際経験なし」はもっとも少ない層（「600万円以上」）でも４割，もっとも多

い層では（「300－400万円」「400－500万円」）5割ほど存在する。また雇用形態別の婚姻・交際状況（表１－８）をみても，男性20歳代の「正規雇用」では4分の3が未婚であり，「恋人なし」または「交際経験なし」が4割である。男性30歳代の「正規雇用」では7割が未婚であり，「恋人なし」または「交際経験なし」が5割を占める。

上記のデータは，未婚と結婚の分かれ目のように見える年収300万円の線を超えても男性の6割は未婚であり，「恋人なし」または「交際経験なし」の状態で結婚の見通しがない者がかなり存在することを示している。また正規雇用に従事していても男性の7割以上が未婚であり，結婚の展望がない者が相当数存在することを示している。もちろん，これらの人びとの中には結婚を望まない人も含まれていると考えられる。しかし，結婚を実現しにくい状況は年収300万円以上の層にも，また正規雇用の中にもかなりの程度存在しているとみられる。加えて，女性の場合には婚姻・交際状況と年収の額との間に明確な相関関係がみられない。

このような事実は所得水準や雇用形態以外に未婚と結婚を分ける要因があることを示唆する。いいかえると，所得水準や雇用形態以外に結婚を実現する要因がある。結婚難の研究はそれを明らかにする必要がある。

ところで，未婚化や結婚難の問題についてはこれまで独身にとどまっている理由を解明することを課題として研究が蓄積されてきた。いいかえると，先行研究は，独身者を対象として，なぜ結婚しないのか，それとも結婚できないのかと問いかけ，これに答えを出そうとしてきた[9]。この観点からの調査研究は一定の成果を上げ，未婚者が結婚しない理由，あるいは独身にとどまっている理由については主要な仮説は出尽くしたといってよい状況にある。

しかしながら，前稿で述べたように婚活支援の必要性を主張する立場に立てば，これで結婚難の原因が解明されたとみるわけにはいかない。未婚化の進行や結婚難の原因を考える場合には独身者の側だけでなく，結婚した夫妻の側からも要因を考察していく必要がある。いいかえると，日本社

会で結婚の数が増えない原因は，結婚の成立を阻害する要因の側面からだけでなく，結婚の成立を促進する要因の側面からも考察することが可能であり，また必要である。そうすると全体的に結婚の実現を困難にする原因は結婚を阻害する要因に比べて，結婚の成立を促進する要因の働きが弱いことに求められる。この結婚を促進する要因は何かが問われなければならない。

しかし，独身者だけを対象とした調査からは彼らが結婚しない理由や結婚できない理由は明らかになるとしても，人びとがどのように結婚相手と出会い，どのようにして交際相手と結婚できたのかはわからない。それを明らかにするには結婚した者を対象として独身時代の結婚に対する考えや交際経験，結婚相手との出会いと結婚を決めた過程を調べる必要がある。ところが，このような調査研究は先行研究の中には乏しい[10]。そのため，私は調査を企画し，実施した[11]。

調査対象者は東広島市に居住する20歳から49歳の男女であり，選挙人名簿から等間隔抽出法によって1350人のサンプルを得た。調査方法は郵送によるアンケート調査であり，実施期間は2010年９月15日から９月30日である。回収できた有効調査票は605（44.8%）であった。このうち既婚者の回収票は442，内訳は男性150，女性292であった[12]。以下ではこの既婚者の回答の集計結果の一部を提示する[13]。それによって既婚者とはどのような人びとなのかをデータで示したい。その結果に依拠し，未婚と結婚を分ける要因，とくに結婚を促進する要因を考えてみたい。

２．既婚者の結婚前の結婚観と異性との交際状況

２－１．結婚相手と交際する前の結婚の意欲

国立社会保障・人口問題研究所が原則５年ごとに実施する「出生動向基本調査」では，未婚者を対象とする「独身者調査」と結婚した男女を対象とする「夫婦調査」を同時に実施している。これらはいずれも日本の結婚と出生の動態に関する重要な参考資料を提供しているが，「独身者調査」の

結果の中で人びとの関心がもっとも高く，もっとも頻繁に参照される項目は「生涯の結婚に対する意欲」である。ところが,「出生動向基本調査」の「夫婦調査」はすでに結婚した者が独身時代に生涯の結婚に対してどのような考えをもっていたのかを調べていない。未婚者の結婚観との比較をおこなうためには既婚者の独身時代の結婚観に関するデータが必要である。そこで我々は調査票の中に結婚相手と交際する前の結婚観を尋ねる質問を入れた。

表２－１は回答者が結婚相手と交際する前に有していた生涯の結婚に対する意欲を性別・結婚した年齢別に集計したものである。これによると，全体的には「いずれ結婚するつもり」と考えていた者が男女ともに90%を超えている。2010年の「出生動向基本調査」の「独身者調査」(以下「独身者調査」と記す）の結果と比較すると,「いずれ結婚するつもり」は男性では「独身者調査」(86.3%）よりもやや高い割合（92.0%）を示し，女性では同程度の割合である。他方,「一生結婚するつもりはない」は男性では「独身者調査」(9.4%）よりもやや低く（8.0%)，女性では「独身者調査」（6.8%）よりもやや高い割合（9.6%）を示している。

表２－１　結婚相手と交際する前の結婚の意欲

結婚の意欲		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
男性	いずれ結婚するつもり		26 86.7%	70 90.9%	31 100.0%	9 90.0%	2 100.0%	138 92.0%
	一生結婚するつもりはない		4 13.3%	7 9.1%	0 0%	1 10.0%	0 0%	12 8.0%
	合計		30 100.0%	77 100.0%	31 100.0%	10 100.0%	2 100.0%	150 100.0%
女性	いずれ結婚するつもり	3 75.0%	112 93.3%	117 92.9%	22 84.6%	7 63.6%	3 60.0%	264 90.4%
	一生結婚するつもりはない	1 25.0%	8 6.7%	9 7.1%	4 15.4%	4 36.4%	2 40.0%	28 9.6%
	合計	4 100.0%	120 100.0%	126 100.0%	26 100.0%	11 100.0%	5 100.0%	292 100.0%

この設問ではすでに結婚した者に対して結婚前の結婚の意欲を尋ねているのであるから,「いずれ結婚するつもり」と回答した者が圧倒的に多かったことは当然の結果である。しかし，ここで注目すべきことは，男女ともに１割弱の者が「一生結婚するつもりはない」と回答していることである。これらの人びとは独身時代の一時期には結婚をする意思はなかったが，結婚相手と交際を始めた後に，何らかの事情でこれを覆し，結婚するに至った。このことは，仮にある時点で未婚者が「非婚の意思」を有していたとしてもそれは絶対不変なものではなく，状況次第で，とくに具体的な交際相手に出現によって変更される可能性があることを意味している。

結婚した年齢別にみると，男性ではどの年齢層でも結婚の意欲をもっていた者が圧倒的に多く，結婚の時期が遅くなった者の間でも「非婚の意思」を固めていた者はほとんどいない。これに対して，女性では「一生結婚するつもりはない」は30－34歳で15.4%，35－39歳で36.4%，40－44歳で40.0%と次第に高くなっている。つまり，女性の場合には結婚の時期が遅れた者ほど「非婚の意思」を固めていた者が比較的多い。結婚相手と交際を始めたあとに，彼女らはこれを翻意し，結婚に至ったとみられる。

２－２．結婚相手と交際する前の結婚に対する考え方

次に結婚の意欲をもっていた者については,「ある程度の年齢までには結婚するつもり」であったのか，それとも「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」と考えていたのかを尋ねた。これも未婚者を対象とした調査の結果と比較するためである。表２－２は回答者の結婚に対する考え方を性別・結婚した年齢別に集計した結果である。

2010年の「独身者調査」の結果では,「ある程度の年齢までには結婚するつもり」は男性で56.9%，女性で58.4%であった。他方,「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」は男性で42.4%，女性で40.5%であった。「独身者調査」は前者を「年齢重視派」，後者を「理想重視派」と呼んでいる。過去の調査の傾向を述べると,「年齢重視派」は1990年代を

表２－２　結婚相手と交際する前の結婚に対する考え方

結婚に対する考え方		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
男性	ある程度の年齢までに結婚するつもり		19 73.1%	46 65.7%	22 71.0%	2 22.2%	2 100.0%	91 65.9%
	理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない		7 26.9%	24 34.3%	9 29.0%	7 77.8%	0 0%	47 34.1%
	合計		26 100.0%	70 100.0%	31 100.0%	9 100.0%	2 100.0%	138 100.0%
女性	ある程度の年齢までに結婚するつもり	1 33.3%	81 72.3%	85 72.6%	11 50.0%	4 57.1%	2 66.7%	184 69.7%
	理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない	2 66.7%	31 27.7%	32 27.4%	11 50.0%	3 42.9%	1 33.3%	80 30.3%
	合計	3 100.0%	112 100.0%	117 100.0%	22 100.0%	7 100.0%	3 100.0%	264 100.0%

通して減少し，「理想重視派」の割合をいったん下回ったが，2000年代に入ると傾向が逆転し，2010年調査では「年齢重視派」が男女ともに過半数を回復した（前掲の表１－４を参照）。

これに対して，既婚者を対象とした我々の調査の結果では，「ある程度の年齢までには結婚するつもり」と考えていた者は男性で65.9%，女性で69.7%であり，男女ともに３分の２前後の者は「年齢重視派」であった。他方，「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」と考えていた者は男性で34.1%，女性で30.3%であった。したがって，「独身者調査」と比較すると，我々の調査では「年齢重視派」だった者はかなり多い。年齢重視派だと一定の年齢に達すると結婚しようという考えであるから「理想重視派」に比べて結婚のハードルは低い。そのため，既婚者に「年齢重視派」だった者が多いのは肯ける結果である。他方，一般に理想は実現が難しいので，理想の相手の出現を待っていると結婚が遅くなるのは当然であろう。未婚者を対象とする「独身者調査」で「理想重視派」が多いことも理解できる結果である。我々の調査の結果でも，結婚した年齢が高

くなると「理想重視派」だった者が増える傾向がある。たとえば,「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」と考えていた者は男性の35－39歳で77.8%，女性の30－34歳で50.0%，35－39歳で42.9%となっている。これは理想を追求したために結婚が遅れたと解釈することができる。

２－３．結婚相手と交際する前に独身でいた最大の理由

我々の調査では結婚相手と交際する前に回答者が独身でいた理由を，順位を付けて３つ選んでもらった。表２－３は「最大の理由」を性別・結婚した年齢別に集計した結果である。これによると，もっとも多かった要因は男女ともに「適当な相手に巡り会わなかったから」であり，次に多かった要因は「結婚するにはまだ若すぎたから」，３番目に「結婚する必要を感じなかったから」であった。この３つの要因の合計は男性で68.0%，女性で74.7%を占めている。

ところで,「独身者調査」は，未婚者が独身でいる理由を，結婚するための積極的な動機がないこと（「結婚しない理由」）と結婚の条件が整わないこと（「結婚できない理由」）に分類し，どちらが強く働いているのかを比較検討している[14]。2010年の調査結果では，若い年齢層（18－24歳）では「結婚するにはまだ若すぎる」「必要性を感じない」「仕事（学業）にうちこみたい」など「結婚しない理由」が多く挙げられている。一方，25－34歳の年齢層になると,「適当な相手にめぐり会わない」を中心に「結婚できない理由」に重心が移っている（国立社会保障・人口問題研究所，2011ｂ，p. ７）。このことについては過去年次の調査結果でも同じような傾向を示していた。

我々の調査結果についても，回答者が独身でいた理由として「結婚しない理由」と「結婚できない理由」のうち，どちらがより大きく作用しているかをみてみたい。その場合に「結婚しない理由」が「結婚できない理由」よりも大きい場合には結婚するための積極的な動機がないために独身にとどまっていた者が多いということであり，結婚したくてもできない状況に

表２－３　結婚相手と交際する前に独身でいた最大の理由

結婚相手と交際する間に独身でいた最大の理由		結婚した年齢 16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	合計
男性	結婚するにはまだ若すぎたから		16 53.3%	15 19.5%	1 3.2%	1 10.0%	0 0%	33 22.0%
	結婚する必要性を感じなかったから		4 13.3%	7 9.1%	6 19.4%	1 10.0%	0 0%	18 12.0%
	仕事（学業）に専念したかったから		0 0%	6 7.8%	4 12.9%	0 0%	0 0%	10 6.7%
	趣味や娯楽を楽しみたかったから		1 3.3%	3 3.9%	1 3.2%	0 0%	0 0%	5 3.3%
	独身の自由さや気楽さを失いたくなかったから		0 0%	7 9.1%	1 3.2%	0 0%	0 0%	8 5.3%
	適当な相手に巡り会わなかったから		6 20.0%	27 35.1%	11 35.5%	6 60.0%	1 50.0%	51 34.0%
	異性とうまくつきあえなかったから		1 3.3%	2 2.6%	1 3.2%	0 0%	0 0%	4 2.7%
	経済力がなかったから		1 3.3%	8 10.4%	3 9.7%	1 10.0%	1 50.0%	14 9.3%
	生活レベルを落としたくなかったから							0 0%
	親や周囲が結婚に同意しなかったから		1 3.3%	0 0%	3 9.7%	0 0%	0 0%	4 2.7%
	その他		0 0%	1 1.3%	0 0%	1 10.0%	0 0%	2 1.3%
	無回答		0 0%	1 1.3%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.7%
	合計	0 0%	30 100.0%	77 100.0%	31 100.0%	10 100.0%	2 100.0%	150 100.0%
女性	結婚するにはまだ若すぎたから	1 25.0%	52 43.3%	20 15.9%	0 0%	0 0%	0 0%	73 25.0%
	結婚する必要性を感じなかったから	0 0%	15 12.5%	18 14.3%	7 26.9%	2 18.2%	3 60.0%	45 15.4%
	仕事（学業）に専念したかったから	1 25.0%	7 5.8%	8 6.3%	2 7.7%	1 9.1%	0 0%	19 6.5%
	趣味や娯楽を楽しみたかったから	1 25.0%	2 1.7%	5 4.0%	3 11.5%	2 18.2%	0 0%	13 4.5%
	独身の自由さや気楽さを失いたくなかったか	0 0%	4 3.3%	12 9.5%	0 0%	1 9.1%	0 0%	17 5.8%
	適当な相手に巡り会わなかったから	0 0%	34 28.3%	52 41.3%	11 42.3%	2 18.2%	1 20.0%	100 34.2%
	異性とうまくつきあえなかったから	0 0%	2 1.7%	4 3.2%	1 3.8%	1 9.1%	0 0%	8 2.7%
	経済力がなかったから	0 0%	2 1.7%	4 3.2%	0 0%	0 0%	0 0%	6 2.1%
	生活レベルを落としたくなかったから	1 25.0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.3%
	親や周囲が結婚に同意しなかったから	0 0%	1 0.8%	0 0%	1 3.8%	0 0%	0 0%	2 0.7%
	その他	0 0%	1 0.8%	2 1.6%	1 3.8%	2 18.2%	1 20.0%	7 2.4%
	無回答	0 0%	0 0%	1 0.8%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.3%
	合計	4 100.0%	120 100.0%	126 100.0%	26 100.0%	11 100.0%	5 100.0%	292 100.0%

あった者はそれだけ少ないとみることができる。しかし，「結婚できない理由」が「結婚しない理由」よりも大きい場合には結婚したくても結婚の条件が整わない者，すなわち結婚難の状況にあった者が多数派を占めていたことになる。なおここでは「結婚するにはまだ若すぎたから」「結婚する必要性を感じなかったから」「仕事（学業）に専念したかったから」「趣味や娯楽を楽しみたかったから」「独身の自由さや気楽さを失いたくなかったから」「生活レベルを落としたくなかったから」の６つを「結婚しない理由」とし，「適当な相手に巡り会わなかったから」「異性とうまくつきあえなかったから」「経済力がなかったから」「親や周囲が結婚に同意しなかったから」の４つを「結婚できない理由」に分類した。

まず全体的には前掲の表２－３から割合を計算すると，男性では「結婚しない理由」が49.3%，「結婚できない理由」は48.7%であり，女性では「結婚しない理由」が57.4%，「結婚できない理由」が39.4%であった。すなわち，独身でいた最大の理由としては男女ともに「結婚しない理由」の割合が「結婚できない理由」の割合を上回っていた。とくに女性では「結婚しない理由」の割合が「結婚できない」理由の割合を大きく上回っていた。したがって，このデータをみる限りでは，我々の調査の回答者については結婚したくても結婚の条件が整わなかった者，つまり結婚難の状況にあった者は男女ともに全体的には少数派であったとみることができる。

しかし，「結婚しない理由」と「結婚できない理由」のバランスは結婚した年齢によって異なる。男性では結婚した年齢が高い者ほど「結婚できない理由」の割合が大きくなる傾向がある。たとえば，男性では「結婚できない理由」の割合は25－29歳はで48.1%であるが，30－34歳では58.1%，35－39歳では70%に跳ね上がっている。また女性の場合には「結婚できない理由」の割合は25－29歳で47.7%，30－34歳で49.9%と目立って大きくなっている。ただし，女性の場合には「結婚できない理由」の割合は35－39歳では27.3%と急減し，同じ世代の男性の場合と真逆の傾向を示している。したがって，我々の調査の回答者については，20歳代後半から30歳代

前半で結婚した女性には結婚難の状況にあった者が比較的多く，30代後半で結婚した女性には結婚するための積極的な動機がないために独身にとどまっていた者が多かったということになる。

２－４．結婚を決めたときに考えた最大の利点

「独身者調査」では結婚の利点および独身の利点の有無を毎回尋ねているが，2010年調査の結果概要をみると二つの点が注目される。一つは結婚することに利点があると感じている未婚男性が2005年の前回調査に比べて減少し（65.7%→62.4%），利点はないと思う未婚男性が大きく増えている（28.6%→34.3%）ことである。結婚することに利点があると感じる未婚女性は過去の調査では長く７割前後で推移してきたが，前回の調査からその割合はやや増える傾向が現れ，2010年の調査は75.1%となっている。一方，独身生活に利点があると考える未婚者は男女ともに高い割合を維持し，2010年の調査では男性81.0%，女性は87.6%となっている（同書，p. ４）

もう一つは結婚の利点の感じ方は就業形態によって異なることである。とりわけ男性ではその違いが大きい。正規雇用者や自営・家族従業員として働く未婚男性では結婚に利点を感じる割合が高い（69.9%，68.9%）。これと比べるとパート・アルバイトなどの非正規雇用や無職・家事の未婚男性では結婚に利点を感じる割合はかなり低くなっている（55.8%，45.8%）。女性でも近年は同様の違いがみられるが，男性に比べると差は小さい（同書，p. ４）。

2010年調査の結果概要によると，結婚することの具体的な利点としては，男女とも「自分の子どもや家族をもてる」を挙げる者が前回調査から顕著に増えており，とくに女性で47．7%と第２位の「精神的な安らぎの場をもてる」の29.7%，第３位の「親や周囲の期待に応えられる」の19.1%，「愛情を感じている人と暮らせる」の17.6%を大きく上回っている[15]。男性では2010年に33.6%と「精神的な安らぎの場をもてる」（32.3%）を抜いて初めてトップの項目になった。第３位は「親や周囲の期待に応えられる」の

14.6%，第４位は「愛情を感じている人と暮らせる」の13.7%である（同書，p. 5）。

先に紹介したように「独身者調査」は正規雇用者や自営・家族従業員の男性では結婚に利点を感じる割合が高く，パート・アルバイトなどの非正規雇用者や無職・家事の男性では結婚に利点を感じる割合は低いことを述べていた。この調査の報告書はなぜ非正規雇用では結婚に利点を感じる者が少ないのかを説明していないが，利点の内容に関する調査結果を踏まえて考えられることは非正規雇用の未婚者は自分が考える結婚の利点を実現しにくいと感じているのではないかということである。たとえば，「自分の子どもや家族をもつ」ためには一定水準の経済力が必要だと考えるならば，非正規雇用で雇用や収入が不安定な場合にはこれを実現しにくいと考えやすい。これは一つの推測にすぎないが，未婚男性の間で雇用形態が結婚の利点の感じ方に影響している理由は今後に解明が必要な重要な問題である。

既婚者を対象とした我々の調査では，結婚の決意をしたときに当時の回答者にとって結婚することにはどのような利点があったのかと尋ね，提示した選択肢の中から３つの利点を順位付けて選んでもらった。表２－４は「結婚を決めたときに考えた結婚の最大の利点」を性別・結婚した年齢別に集計した結果である。これによると，全体的には男性の場合にもっとも回答数が多かった項目は「好きな人と一緒に暮らせる」の36.0%である，次に「精神的な安らぎの場をもてる」の25.3%，３番目に「自分の子どもや家族をもてる」の21.3%であった。この上位３つの項目で全体の82.6%を占めている。女性の場合にはもっとも多かった項目は男性の場合と同様に「好きな人と一緒に暮らせる」の42.6%であり，次に「精神的な安らぎの場をもてる」の16.8%，３番目に「自分の子どもや家族をもてる」の16.1%であった。この上位３つの項目で全体の75.5%を構成する。

「独身者調査」の結果と比べると，我々の調査では「独身者調査」で第３位の利点であった「好きな人と一緒に暮らせる」が第１位の利点に浮上

表２－４　結婚を決めたときに考えた結婚の最大の利点

	結婚の最大の利点の内容	結婚した年齢 16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	合計
男性	経済的な安定が得られる		1 3.3%	1 1.3%	1 3.2%	0 0%	0 0%	3 2.0%
	社会的信用が得られる		2 6.7%	2 2.6%	0 0%	0 0%	0 0%	4 2.7%
	周囲と対等な意識をもてる		0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
	精神的な安らぎの場をもてる		9 30.0%	15 19.5%	8 25.8%	6 60.0%	0 0%	38 25.3%
	好きな人と一緒に暮らせる		13 43.3%	29 37.7%	9 29.0%	2 20.0%	1 50.0%	54 36.0%
	自分の子どもや家族をもてる		4 13.3%	18 23.4%	9 29.0%	1 10.0%	0 0%	32 21.3%
	新しい人生を開始できる		0 0%	6 7.8%	1 3.2%	1 10.0%	0 0%	8 5.3%
	性的な充足が得られる		0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
	生活の上で便利になる		1 3.3%	0 0%	3 9.7%	0 0%	0 0%	4 2.7%
	親から独立できる		0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
	親や周囲を安心させる		0 0%	3 3.9%	3 9.7%	0 0%	1 50.0%	7 4.7%
	老後に孤独でなくなる		0 0%	1 1.3%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.7%
	その他		1 3.3%	1 1.3%	0 0%	0 0%	0 0%	2 1.3%
	合計		30 100.0%	77 100.0%	31 100.0%	10 100.0%	2 100.0%	150 100.0%
女性	経済的な安定が得られる	0 0%	4 3.3%	11 8.7%	1 3.8%	1 9.1%	0 0%	17 5.8%
	社会的信用が得られる	0 0%	0 0%	1 0.8%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.3%
	周囲と対等な意識をもてる	0 0%	1 0.8%	3 2.4%	0 0%	0 0%	0 0%	4 1.4%
	精神的な安らぎの場をもてる	1 25.0%	15 12.5%	23 18.3%	5 19.2%	1 9.1%	4 80.0%	49 16.8%
	好きな人と一緒に暮らせる	1 25.0%	62 51.7%	54 42.9%	4 15.4%	3 27.3%	0 0%	124 42.5%
	自分の子どもや家族をもてる	2 50.0%	18 15.0%	16 12.7%	7 26.9%	3 27.3%	0 0%	46 15.8%
	新しい人生を開始できる	0 0%	9 7.5%	6 4.8%	2 7.7%	2 18.2%	0 0%	19 6.5%
	性的な充足が得られる	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
	生活の上で便利になる	0 0%	1 0.8%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.3%
	親から独立できる	0 0%	4 3.3%	2 1.6%	1 3.8%	0 0%	0 0%	7 2.4%
	親や周囲を安心させる	0 0%	2 1.7%	7 5.6%	5 19.2%	0 0%	1 20.0%	15 5.1%
	老後に孤独でなくなる	0 0%	0 0%	1 0.8%	0 0%	1 9.1%	0 0%	2 0.7%
	その他	0 0%	4 3.3%	1 0.8%	1 3.8%	0 0%	0 0%	6 2.1%
	無回答	0 0%	0 0%	1 0.8%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.3%
	合計	4 100.0%	120 100.0%	126 100.0%	26 100.0%	11 100.0%	5 100.0%	292 100.0%

している。逆に「独身者調査」でトップの項目であった「自分の家族や子どもをもてる」は第３位の項目に後退している。このことは興味深い結果である。具体的な結婚相手を前提として結婚の利点を考える場合と，結婚相手を前提とせずに一般的に結婚の利点を考える場合では結婚の利点の考え方に違いが出ているからである。「自分の家族や子どもをもてる」ことを結婚の第一の利点と考えていた独身者とは異なり，結婚した人は「好きな人と一緒に暮らせる」ことを結婚の第一の利点と位置づけていた。このことの意味は後に改めて考えたい。結婚した年齢別にみた場合，「好きな人と一緒に暮らせる」は男女ともに25歳代前半で結婚した者にとくに多い。

２－５．結婚相手と交際する前の異性との交際状況

国立社会保障・人口問題研究所が５年ごとに実施する「独身者調査」は過去年次の調査で未婚男女の異性との交際が低調な状況で推移していることを明らかにしてきたが，2010年の調査結果はこの傾向がいっそう強まったことを示している。すなわち，2010年の結果によると，現在「交際している異性はいない」と回答した者は2005年の前回調査時に比べて男性は9.2ポイント増えて61.4%，女性は4.8%増えて49.5%だった。また異性の交際相手をもたず，かつ異性との交際を望んでいない未婚者は男性では全体の27.6%，女性では22.6%を占めている（同書，p. ８）。

それではすでに結婚に至った者の独身時代の異性交際の状況についてはどうであろうか。彼らは結婚相手と交際する前に別の交際相手をもっていたのだろうか。残念ながら，全国調査である「出生動向基本調査」の「夫婦調査」はこのような設問を設定していない。そこで我々は未婚者の異性交際の状況と比較するために，既婚者の独身時代の交際状況を調べることにした。すなわち，結婚相手と交際する前に異性の友人や恋人がいたかを尋ねる質問を調査票の中に入れた。

表２－５は「結婚相手と交際する前の異性との交際状況」を性別・結婚した年齢別に集計した結果である。これをみると，全体では男性の58.0%，

表２－５　結婚相手と交際する前の異性との交際状況

異性との交際状況		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
男性	交際していた異性はいなかっ		12 40.0%	28 36.4%	16 51.6%	6 60.0%	0 0%	62 41.3%
	友人として交際していた異性がいた		5 16.7%	16 20.8%	3 9.7%	0 0%	2 100.0%	26 17.3%
	恋人として交際していた異性がいた		13 43.3%	32 41.6%	12 38.7%	4 40.0%	0 0%	61 40.7%
	無回答		0 0%	1 1.3%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.7%
	合計		30 100.0%	77 100.0%	31 100.0%	10 100.0%	2 100.0%	150 100.0%
女性	交際していた異性はいなかっ	0 0%	35 29.4%	30 23.8%	6 23.1%	2 18.2%	0 0%	73 25.0%
	友人として交際していた異性がいた	2 50.0%	32 26.9%	28 22.2%	8 30.8%	3 27.3%	1 20.0%	74 25.3%
	恋人として交際していた異性がいた	2 50.0%	51 42.9%	68 54.0%	12 46.2%	6 54.5%	4 80.0%	144 49.3%
	無回答	0 0%	1 0.8%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.3%
	合計	4 100.0%	119 100.0%	126 100.0%	26 100.0%	11 100.0%	5 100.0%	292 100.0%

女性の74.6％が結婚相手と交際をする前に異性の交際相手をもっていた。つまり，男性の６割，女性の７割半が結婚相手とは別の交際相手をもっていた。逆に「交際していた異性はいなかった」者は男性では４割，女性では２割半にとどまった。我々の調査の回答者については，独身時代に異性との交際状況が比較的活発であった者が多いとみることができる。このような既婚者の異性との交際の活発さは未婚者の交際状況の低調さと好対照をなす事実である。

結婚した年齢別にみると，男性では結婚した年齢が高くなると「交際していた異性はいなかった」と回答する者が多くなる傾向がある。しかし，女性の場合にはその逆で結婚した年齢が高くなると，「交際している異性はいなかった」は少なくなり，異性の交際相手をもっていた者が多くなる傾向がある。とくに「恋人として交際していた異性がいた」は女性では結婚した年齢が35－39歳で54.5％，40－44歳で80％になっていることは注目される。

２－６．結婚相手と交際する前に交際していた恋人との結婚の希望

未婚者を対象とした全国調査は，異性と交際している未婚者に対してその交際相手との結婚の希望を尋ねている。2010年の「独身者調査」の結果によると，交際している異性をもつ者のうち，「結婚したいと思っている」と回答した者は男性の51.6%，女性の45.3%であった（同書，p. 8）。我々の調査でも同様の質問をした。まず友人と恋人と一括して「異性の交際相手との結婚の希望」をみてみたい。

表２－６は「結婚相手と交際する前に交際していた相手との結婚の希望」を性別・年齢別に集計した結果である。これによると，「結婚したいと思っていた」は男性で27.3%，女性で31.5%にとどまった。「独身者調査」の結果と比較すると，交際相手との結婚を望んでいた者の割合は少ない。我々の調査では男性の70.5%，女性の63.5%は交際相手との結婚を希望していなかった。男女とも大半の者は交際相手との結婚を考えていなかったことがわかる。年齢別にみた場合，男性の40－44歳と女性の35－39歳で結婚を希望する者が比較的多い。「結婚したいと思っていた」は男性の40－44歳で42.9%，女性の35－39歳で43.1%である。

表２－６　結婚相手と交際する前に交際していた相手との結婚の希望

結婚の希望		年齢						合計
		20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	
男性	結婚したいと思っていた	1 33.3%	2 22.2%	5 33.3%	4 16.7%	9 42.9%	3 18.8%	24 27.3%
	結婚は考えていなかった	2 66.7%	7 77.8%	10 66.7%	20 83.3%	11 52.4%	12 75.0%	62 70.5%
	無回答	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 4.8%	1 6.3%	2 2.3%
	合計	3 100.0%	9 100.0%	15 100.0%	24 100.0%	21 100.0%	16 100.0%	88 100.0%
女性	結婚したいと思っていた	2 66.7%	9 34.6%	11 23.9%	22 43.1%	13 27.1%	12 26.7%	69 31.5%
	結婚は考えていなかった	1 33.3%	17 65.4%	31 67.4%	25 49.0%	33 68.8%	32 71.1%	139 63.5%
	無回答	0 0%	0 0%	4 8.7%	4 7.8%	2 4.2%	1 2.2%	11 5.0%
	合計	3 100.0%	26 100.0%	46 100.0%	51 100.0%	48 100.0%	45 100.0%	219 100.0%

２－７．結婚相手と交際する前に交際していた恋人との結婚の希望

異性との交際という場合，友人として交際している場合と恋人として交際している場合では交際相手との結婚の希望は当然違ってくると考えられる。ここでは恋人として交際している場合について，交際相手との結婚の希望をみてみたい。2010年の「独身者調査」の結果によれば,「恋人として交際している異性がいる」者のうち，男性の66.2%，女性の70.9%が交際相手との結婚を希望していた。男性は３分の２,女性は7割が恋人との結婚を望んでいたことになる。

表２－７は「結婚相手と交際する前に交際していた恋人との結婚の希望」を性別・結婚した年齢別に集計した結果である。これをみると，男女ともに大半の者はかつての恋人との結婚を考えていなかったことになる。結婚相手と交際する前に交際していた恋人との結婚を考えていなかった者は，男性では全体の68.9%，女性は58.3%であった。これは恋人との結婚を希望する者が多かった「独身者調査」の結果とは真逆の傾向である。結婚した年齢別では，かつての恋人との結婚を考えていなかった者は男女ともに20－24歳で多くなっている。

表２－７　結婚相手と交際する前に交際していた恋人との結婚の希望

結婚の希望		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
男性	結婚したいと思っていた		2 15.4%	9 28.1%	5 41.7%	2 50.0%		18 29.5%
	結婚は考えていなかった		11 84.6%	23 71.9%	7 58.3%	1 25.0%		42 68.9%
	無回答		0 0%	0 0%	0 0%	1 25.0%		1 1.6%
	合計		13 100.0%	32 100.0%	12 100.0%	4 100.0%		61 100.0%
女性	結婚したいと思っていた	0 0%	18 35.3%	26 37.7%	6 50.0%	4 66.7%	2 50.0%	56 38.9%
	結婚は考えていなかった	2 100.0%	33 64.7%	39 56.5%	6 50.0%	2 33.3%	2 50.0%	84 58.3%
	無回答	0 0%	0 0%	4 5.8%	0 0%	0 0%	0 0%	4 2.8%
	合計	2 100.0%	51 100.0%	69 100.0%	12 100.0%	6 100.0%	4 100.0%	144 100.0%

しかし，これは決して驚くべき結果ではない。我々の調査の回答者はかつての恋人と別れて，新たな交際相手と結婚した人びとである。もしかつての恋人との結婚希望が強ければ，その人はその恋人との結婚を選択していた可能性が高くなるはずである。そうなれば現在の配偶者と交際し，結婚することはなかったであろう。だから，新たな交際相手と結婚した者の中でかつての恋人との結婚を考えていなかった者が多いのはある意味では当然の結果である。

それでも男女ともに大半の者がかつての恋人との結婚を考えていなかったことは重要である。このことから直ちに「恋愛と結婚の分離」の傾向があると主張することはできないが，我々の調査の回答者について言えば，恋愛したから直ちにその相手との結婚を考える者，つまり恋愛と結婚が１対１で対応していた者は少数派であったことが分かる。

２－８．結婚相手と交際する前に異性の交際相手がいなかった最大の理由

これまでに述べてきたことは，結婚相手と交際する前に異性の交際相手がいた者の交際状況である。しかし，回答者の中には結婚相手と交際する前に異性の交際相手がいなかった者も一定の割合で存在する。我々の調査の結果では，それは男性の41.3%，女性の25.0%であった。それではどのような理由から彼らは異性の交際相手がいなかったのであろうか。我々はそれを質問し，その理由を選択肢の中から順位づけて３つ選択してもらった。

表２－８は「結婚相手と交際する前に異性の交際相手がいなかった最大の理由」を性別・結婚した年齢別に集計した結果である。これによると，全体として男女ともにもっとも選択数が多い理由は「異性との出会いはあったが，適当な相手に巡り会えなかった」であり，男性の56.3%，女性の61.6%がこれを選んでいた。２番目に選択数が多かった理由は「異性との出会いがなかった」であり，男性の26.6%，女性の場合には19.2%であった。男女ともに８割を超える者が上位２つの理由を選択し，その他の理由はすべて10%以下の割合にとどまっている。とくに男性で「経済的余裕が

表２－８　結婚相手と交際する前に異性の交際相手がいなかった最大の理由

結婚前に交際相手がいなかった最大の理由		結婚した年齢 20-24	25-29	30-34	35-39	合計
男性	異性との出会いがなかった	5 41.7%	9 30.0%	1 6.3%	2 33.3%	17 26.6%
	異性との出会いはあったが，適当な相手に巡り会えなかった	6 50.0%	18 60.0%	10 62.5%	2 33.3%	36 56.3%
	異性との出会いがあったが，異性との会話や交際が苦手であった	1 8.3%	1 3.3%	1 6.3%	1 16.7%	4 6.3%
	時間的余裕がなかった	0 0%	1 3.3%	3 18.8%	1 16.7%	5 7.8%
	経済的余裕がなかった	0 0%	0 0%	1 6.3%	0 0%	1 1.6%
	異性との交際に興味がなかった	0 0%	1 3.3%	0 0%	0 0%	1 1.6%
	合計	12 100.0%	30 100.0%	16 100.0%	6 100.0%	64 100.0%
女性	異性との出会いがなかった	6 17.1%	6 20.0%	2 33.3%	0 0%	14 19.2%
	異性との出会いはあったが，適当な相手に巡り会えなかった	22 62.9%	20 66.7%	3 50.0%	0 0%	45 61.6%
	異性との出会いがあったが，異性との会話や交際が苦手であった	4 11.4%	1 3.3%	0 0%	0 0%	5 6.8%
	時間的余裕がなかった	1 2.9%	2 6.7%	1 16.7%	0 0%	4 5.5%
	異性との交際に興味がなかった	2 5.7%	0 0%	0 0%	1 50.0%	3 4.1%
	その他	0 0%	1 3.3%	0 0%	1 50.0%	2 2.7%
	合計	35 100.0%	30 100.0%	6 100.0%	2 100.0%	73 100.0%

なかった」「異性との交際に興味がなかった」とする者はほとんどいないことに注目したい。結婚した年齢別ではとくに顕著な傾向はないが，男女ともに35－39歳で結婚した者については異性との出会いがなかったことや適当な相手と巡り会えなかったこと以外の理由を述べる者がやや多い。

異性の交際相手をもたない理由については，我々の調査は未婚者を対象とした部分でも質問をおこなっていた。その結果を述べると，未婚者にとって「交際相手がいない最大の理由」の第１位は，男性では「異性との出会

いがない」であり（33.3%），第２位は「異性との出会いはあるが適当な相手に巡り会えない」（25.4%）であった。女性では第１位の理由は「異性との出会いはあるが，適当な相手に巡り会えない」（40.2%）であり，第２位は「異性との出会いがない」（35.6%）であった。未婚者の回答と比べると，既婚者の回答には異性との出会いがなかったことを理由とする者の割合が明らかに小さい。逆に言えば，既婚者の場合には異性との出会いに恵まれていた者の割合がずっと大きい。また男性の既婚者では男性の未婚者に比べて，異性の交際相手がいない理由として「異性との出会いがあったが，異性との会話や交際が苦手であった」や「経済的余裕がなかった」を回答する者の割合が小さい。いいかえると，既婚者の男性は未婚者の男性に比べて当事者のパーソナリティ関する要因や経済的条件によって異性との交際に困難を感じる者が少ない。これらは重要な相違であり，注目に値する。

なお2010年に内閣府が実施した「結婚・家族形成に関する意識調査」では年収を婚姻・交際状況別にみた結果が提示されているが，それによると男性の「恋人なし」と「交際経験なし」には年収300万円以下が多い。とくに「交際経験なし」は男性の20代で70.2%，30代で53.4%が年収300万円以下であった（内閣府2011，p.16）。第１節で紹介した婚姻･交際状況を年収別にみた結果と同様に，この結果は経済力と交際状況との強い関連性を示唆する。より端的に言えば，異性の交際相手がいない者には経済力の低い者が多いということである。しかしながら，我々の調査では，異性の交際相手がいない理由について「経済的余裕がない」を挙げる者は男性の未婚者で11.1%,既婚者で1.1%であった。このことは少なくとも意識の上では経済的な要因が交際相手の有無を説明する直接的な要因とはなっていないことを示している。

２－９．交際相手を見つけるために積極的な活動をしたか

我々の調査は，未婚者を対象とした部分で「交際相手を見つけるために積極的な活動をしたか」を尋ねた。つまり，「結婚活動」の有無を尋ねた。

その結果と比較するため，同じ質問を結婚相手と交際する前に異性の交際相手がいなかった者に対しておこなった。

表２－９は「交際相手を見つけるために積極的な活動をしたか」を性別・結婚した年齢別に集計した結果である。これによると，「交際相手を見つけるために積極的な活動をした」者は男女ともに少数派であった。それは男性で18.8%，女性で23.3%であった。未婚者を対象とした結果では「交際相手を見つけるために積極的な活動をした」と回答した者は男性で22.0%，女性では33.3%であった。これと比べると既婚者の活動状況はやや低調だといえる。我々の調査の限りではあるが，既婚者には婚活に頼らずに交際相手を見つけることができた者が多いという結果が出ている。

ただし，結婚した年齢別では男性の35－39歳，女性の30－34歳，35－39歳で積極的な活動をした者が多くなっている。とくに35－39歳で結婚した者では男女ともに交際相手を見つけるために積極的な活動をした者が過半数を超えている。男女ともにこの年齢層では自然な出会いで交際相手を見つけることが難しくなっていることを想像させる結果である。

表２－９　交際相手を見つけるために積極的な活動をしたか

積極的な活動をしたか		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
男性	した		6 20.0%	11 14.3%	5 16.1%	6 60.0%	0 0%	28 18.7%
	しなかった		24 80.0%	66 85.7%	26 83.9%	4 40.0%	2 100.0%	122 81.3%
	合計		30 100.0%	77 100.0%	31 100.0%	10 100.0%	2 100.0%	150 100.0%
女性	した	1 25.0%	17 14.2%	31 24.6%	11 42.3%	6 54.5%	1 20.0%	67 22.9%
	しなかった	3 75.0%	103 85.8%	95 75.4%	15 57.7%	5 45.5%	4 80.0%	225 77.1%
	合計	4 100.0%	120 100.0%	126 100.0%	26 100.0%	11 100.0%	5 100.0%	292 100.0%

2－10．結婚活動の内容

我々の調査は未婚者を対象とした部分で，交際相手を見つけるために積極的な活動をしたと回答した者に対し，その活動内容を複数回答で尋ねた。その結果と比較するため，同様の質問を，結婚相手と交際する前に異性の交際相手がいなかった者に対しておこなった。

表２－10は「結婚活動の内容」を性別・結婚した年齢別に集計した結果である。これによると，全体的にもっとも回答数が多かった活動は，男女ともに「友人・知人に紹介を依頼」である。それは男性で50.0％，女性では53.7％であった。２番目に多かった活動は男女ともに「合コンへの参加」であり，男性で25.0％，女性では47.8％であった。３番目に多かった活動は男女ともに「お見合い」であり，男性で17.9％，女性では31.3％であった。

結婚した年齢別に活動内容をみると，男女ともに20－24歳で「友人・知人に紹介を依頼」が非常に多くなっている。女性では30－34歳で「合コンに参加」が非常に多い。

昨今話題になっている「婚活」の主要な活動形態は，一般に「お見合い」「お見合いパーティ」「結婚相談所や結婚情報サービス」を利用し，交際相手を探すことである。我々の調査では，この３つの活動をおこなった者は男性で32.1％であり，女性では59.6％に達している。とくに男性の30－34歳，35－39歳，女性の35－39歳では「お見合い」や「結婚相談所や結婚情報サービスを利用」が比較的多い。後者は見合いの一種である。我々の調査の回答者では，「友人・知人に紹介を依頼」するとともに様々な形態で「見合い」を利用して交際相手を探した者が比較的多くなっていることは注目すべき事実である。

2－11．結婚活動の効果

それでは結婚活動の効果はどのようであったのだろうか。婚活によって交際相手を見つけることはできたのであろうか。それを確かめるため，交

表２－10　結婚活動の内容

活動の内容		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
男性	趣味の活動や習い事に参加		0 0%	2 18.2%	1 20.0%	0 0%		3 10.7%
	サークル活動に参加		0 0%	1 9.1%	0 0%	0 0%		1 3.6%
	街中や旅先で機会を探す		1 16.7%	1 9.1%	1 20.0%	0 0%		3 10.7%
	友人・知人に紹介を依頼		6 100.0%	3 27.3%	2 40.0%	3 50.0%		14 50.0%
	同僚・上司に紹介を依頼		0 0%	0 0%	1 20.0%	1 16.7%		2 7.1%
	合コンに参加		2 33.3%	3 27.3%	1 20.0%	1 16.7%		7 25.0%
	親や親族に紹介を依頼		0 0%	1 9.1%	0 0%	2 33.3%		3 10.7%
	お見合いパーティに参加		0 0%	1 9.1%	0 0%	1 16.7%		2 7.1%
	お見合い		0 0%	2 18.2%	0 0%	3 50.0%		5 17.9%
	結婚相談所や結婚情報サービスを利用		0 0%	0 0%	2 40.0%	0 0%		2 7.1%
	インターネットや携帯のサイトを利用		1 16.7%	0 0%	1 20.0%	2 33.3%		4 14.3%
	その他		0 0%	2 18.2%	0 0%	0 0%		2 7.1%
	合計		6 100.0%	11 100.0%	5 100.0%	6 100.0%		28 100.0%
女性	趣味の活動や習い事に参加	0 0%	1 5.9%	7 22.6%	1 9.1%	1 16.7%	0 0%	10 14.9%
	サークル活動に参加	0 0%	1 5.9%	7 22.6%	1 9.1%	0 0%	0 0%	9 13.4%
	ボランティア活動に参加	0 0%	0 0%	2 6.5%	0 0%	0 0%	0 0%	2 3.0%
	街中や旅先で機会を探す	0 0%	0 0%	1 3.2%	0 0%	0 0%	0 0%	1 1.5%
	友人・知人に紹介を依頼	1 100.0%	12 70.6%	13 41.9%	7 63.6%	2 33.3%	1 100.0%	36 53.7%
	兄弟姉妹に紹介を依頼	0 0%	0 0%	1 3.2%	1 9.1%	0 0%	0 0%	2 3.0%
	同僚・上司に紹介を依頼	0 0%	0 0%	1 3.2%	0 0%	1 16.7%	0 0%	2 3.0%
	合コンに参加	0 0%	4 23.5%	17 54.8%	8 72.7%	2 33.3%	1 100.0%	32 47.8%
	親や親族に紹介を依頼	0 0%	1 5.9%	3 9.7%	1 9.1%	1 16.7%	0 0%	6 9.0%
	お見合いパーティに参加	0 0%	2 11.8%	4 12.9%	3 27.3%	1 16.7%	0 0%	10 14.9%
	お見合い	0 0%	3 17.6%	10 32.3%	6 54.5%	1 16.7%	1 100.0%	21 31.3%
	結婚相談所や結婚情報サービスを利用	0 0%	1 5.9%	3 9.7%	1 9.1%	3 50.0%	1 100.0%	9 13.4%
	インターネットや携帯のサイトを利用	0 0%	0 0%	0 0%	1 9.1%	1 16.7%	0 0%	2 3.0%
	合計	1 100.0%	17 100.0%	31 100.0%	11 100.0%	6 100.0%	1 100.0%	67 100.0%

注：回答は複数回答。パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されている。

際相手を見つけるために積極的な活動をしたと回答した者に対し，我々はその活動の効果を尋ねた。

表２－11は「活動の効果」を性別・結婚した年齢別に集計した結果である。これによると，全体的に男女ともに活動の効果はきわめて大きいことが分かる。「その活動による出会いで交際相手ができた」者は男性の場合には74.1%，女性の場合には86.6%に達した。「その活動による出会いではないが，交際相手はできた」を加えると，男性の８割，女性の９割が交際相手を見つけている。

ところで，未婚者を対象とした我々の調査では結婚活動によって交際相手ができた者の割合は男女ともに33.3%であった。逆に交際相手ができなかった者は男性で61.1%，女性で51.9%であった。これと比べても既婚者の婚活は極めて高い成功率を示していると言える。もっとも，ここでは結婚した者を対象として婚活の効果を尋ねているのであるから，彼らの活動が高い成功率を示していることは当然の結果であると言える。

表２－11　結婚活動の効果

活動の効果		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
男性	その活動による出会いで交際相手ができた		4 80.0%	8 72.7%	3 60.0%	5 83.3%		20 74.1%
	その活動による出会いではないが，交際相手はできた		1 20.0%	1 9.1%	0 0%	0 0%		2 7.4%
	交際相手はできなかった		0 0%	2 18.2%	2 40.0%	1 16.7%		5 18.5%
	合計		5 100.0%	11 100.0%	5 100.0%	6 100.0%		27 100.0%
女性	その活動による出会いで交際相手ができた	1 100.0%	16 94.1%	27 87.1%	9 81.8%	4 66.7%	1 100.0%	58 86.6%
	その活動による出会いではないが，交際相手はできた	0 0%	1 5.9%	1 3.2%	1 9.1%	0 0%	0 0%	3 4.5%
	交際相手はできなかった	0 0%	0 0%	3 9.7%	1 9.1%	2 33.3%	0 0%	6 9.0%
	合計	1 100.0%	17 100.0%	31 100.0%	11 100.0%	6 100.0%	1 100.0%	67 100.0%

2－12．婚活で交際相手を作るのは難しいと感じるか

我々は未婚者を対象とした調査票の部分で，婚活をした者に対し「婚活で交際相手を作るのは難しいと感じるか」と尋ねた。その結果は「そう感じる」と回答した者は男性で66.7%，女性で63.0%であった。これと比較するために，既婚者に対しても同様の質問を設定した。

表２－12は「婚活で交際相手を作るのは難しいと感じるか」を性別・結婚した年齢別に集計した結果である。これによると，全体的には男女ともに大半の者は婚活で交際相手を作ることに困難を感じていなかった。婚活で交際相手を作ることを「難しいと感じない」と答えた者は男性で66.7%，女性で70.1%に達した。

婚活はいっとき流行語となったが，この語が広まるとともに浮き彫りとなったのは結婚活動の困難さや婚活をしても結婚できない現実である。実際，合コンやお見合いパーティに熱心に参加しても結婚に結びつかない事例を述べたメディアの記事には事欠かない。結婚情報サービスや結婚相談所などの見合い産業の成婚率は正確なデータが公表されていないので検証できないが，入会者が期待するほどには高くないのが現実のようである[16]。

表２－12　婚活で交際相手を作るのは難しいと感じるか

婚活で交際相手を作るのは難しい		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
男性	そう感じる		1 20.0%	3 27.3%	3 60.0%	2 33.3%		9 33.3%
	そうは感じない		4 80.0%	8 72.7%	2 40.0%	4 66.7%		18 66.7%
	合計		5 100.0%	11 100.0%	5 100.0%	6 100.0%		27 100.0%
女性	そう感じる	0 0%	5 29.4%	7 22.6%	6 54.5%	2 33.3%	0 0%	20 29.9%
	そうは感じない	1 100.0%	12 70.6%	24 77.4%	5 45.5%	4 66.7%	1 100.0%	47 70.1%
	合計	1 100.0%	17 100.0%	31 100.0%	11 100.0%	6 100.0%	1 100.0%	67 100.0%

それゆえ，未婚者を対象とした調査の結果として，「婚活で交際相手を作るのは難しいと感じる」者が男女ともに３分の２程度に達したのは至極当然のように思える。これと比べると，既婚者を対象とした我々の調査で「難しいと感じない」が男女ともに３分の２以上となったのは一見意外な結果に感じる。

しかしながら，既婚者の回答の中に「婚活で交際相手を作ることは難しいと感じなかった」者が非常に多かったことは，前問で質問した結婚活動の効果が極めて高かったことと表裏一体の結果であると考えられる。つまり，婚活に成功し交際相手を見つけた者が多いので婚活に大きな困難を感じなかった者が多いのではないかということである。

ただし，結婚した年齢別にみた場合，男女ともに30－34歳で結婚した者は「そう感じる」と答えた者が過半数を超えている。これは，この年齢で結婚した者については婚活に際しそれなりの苦労を感じた者が多いことを示している。

３．既婚者の配偶者選択過程と結婚の過程

３－１．結婚相手と知り合ったきっかけ

ここからは結婚相手との関係について尋ねた質問の結果をみていきたい。最初は結婚した相手とどのようなきっかけで知り合ったのかについてである。

この項目については全国調査のデータがある。すなわち，国立社会保障・人口問題研究所が５年ごとに実施する「出生動向基本調査」は「夫婦調査」の調査票でこの項目を毎回調べている。表３－１－１はその結果であり，各調査時点より過去５年間に結婚した初婚どうしの夫婦について，夫と妻が知り合ったきっかけの割合の変化を示したものである。これによると，1982年に第１位であった「見合い」（「結婚相談所」での出会いを含む）は毎回減少し，2010年では第５位の項目に後退した。これに代わって一時期隆盛したのは「職場結婚」であり，2002年の調査まで「職場や仕事

表３－１－１　出生動向基本調査の調査年別にみた夫妻の知り合ったきっかけの構成

調査年	学校で	職場や仕事で	幼なじみ・隣人	サークル・クラブ・習い事で	友人・兄弟姉妹を通じて	街中や旅先で	アルバイト先で	見合い結婚	その他・不詳
1982年	6.1	25.3	2.2	5.8	20.5	8.2		29.4	2.5
1987年	7.0	31.5	1.5	5.3	22.4	6.3		23.3	2.7
1992年	7.7	35.0	1.8	5.5	22.3	6.2	4.2	15.2	2.0
1997年	10.4	33.5	1.5	4.8	27.0	5.2	4.7	9.7	3.1
2002年	9.3	32.9	1.1	5.1	29.0	5.4	4.8	6.9	5.2
2005年	11.1	29.9	1.0	5.2	30.9	4.5	4.3	6.4	6.8
2010年	11.9	29.3	2.4	5.5	29.7	5.1	4.2	5.2	6.8

注：対象は各調査時点より過去５年間に結婚した初婚どうしの夫婦。見合い結婚には出会いのきっかけが「見合いで」，「結婚相談所で」の結婚。1982年，1987年の調査は「アルバイト先で」を選択肢に含まない。
資料：国立社会保障・人口問題研究所（2011ａ）。

で」の出会いはもっとも大きな割合を占めた。しかし，「職場や仕事で」の割合は近年に減少し，それを補う形で大きくなってきたのは「友人・兄弟姉妹を通じて」と「学校で」である。2010年の調査では，「友人・兄弟姉妹を通じて」と「職場や仕事で」がともに30％弱で拮抗し，次いで「学校で」の出会いが11.9％となっている。これら上位３つのきっかけは全体の７割を占める。その他の項目はあまり変化がみられない。それゆえ，調査の結果概要は「これまで同様に日常的な場での出会いが多数を占めている」と総括している（国立社会保障・人口問題研究所，2011ａ，p. ３）。

表３－１－２は我々の調査結果であり，「結婚相手と知り合ったきっかけ」を性別・年齢別に集計した結果である。全体的にもっとも多かった項目は男性では「職場や仕事の関係で」の33.3％であり，２番目は「友人・知人の紹介で」の22.2％，３番目は「学校で」の14.0％，４番目に「見合いで」の10.7％であった。女性ではもっとも多かった項目は「職場や仕事の関係で」の30.8％であり，２番目は「友人・知人の紹介で」の22.9％，３番目は「学校で」の10.3％，４番目に「見合いで」の9.6％であった。したがって，男女ともに第１位から第４位までの要因は同じである。この４つの要因が主要なきっかけであることは前述の「出生動向基本調査」の結果と一致する。

表３－１－２　結婚相手と知り合ったきっかけ

		年齢						合計
		20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	
男性	学校で	2 66.7%	4 33.3%	0 0%	2 5.7%	6 13.6%	7 21.9%	21 14.0%
	職場や仕事の関係で	0 0%	3 25.0%	11 45.8%	12 34.3%	13 29.5%	11 34.4%	50 33.3%
	幼なじみ・隣人関係	0 0%	0 0%	1 4.2%	0 0%	1 2.3%	0 0%	2 1.3%
	学校以外の活動・習い事で	0 0%	0 0%	3 12.5%	0 0%	0 0%	2 6.3%	5 3.3%
	友人・知人の紹介で	0 0%	3 25.0%	5 20.8%	12 34.3%	8 18.2%	5 15.6%	33 22.0%
	見合いで（親や親族・上司の紹介を含む）	0 0%	0 0%	0 0%	2 5.7%	8 18.2%	6 18.8%	16 10.7%
	結婚相談所や結婚情報サービスで	0 0%	0 0%	0 0%	1 2.9%	1 2.3%	0 0%	2 1.3%
	街中や旅先の出会いで	0 0%	0 0%	2 8.3%	3 8.6%	0 0%	1 3.1%	6 4.0%
	アルバイト先で	1 33.3%	0 0%	0 0%	0 0%	1 2.3%	0 0%	2 1.3%
	インターネットや携帯のサイトで	0 0%	0 0%	1 4.2%	0 0%	3 6.8%	0 0%	4 2.7%
	合コンで（飲み会を含む）	0 0%	2 16.7%	0 0%	0 0%	2 4.5%	0 0%	4 2.7%
	その他	0 0%	0 0%	1 4.2%	2 5.7%	1 2.3%	0 0%	4 2.7%
	無回答	0 0%	0 0%	0 0%	1 2.9%	0 0%	0 0%	1 0.7%
	合計	3 100.0%	12 100.0%	24 100.0%	35 100.0%	44 100.0%	32 100.0%	150 100.0%
女性	学校で	1 20.0%	2 6.9%	3 5.4%	8 12.1%	10 13.7%	6 9.5%	30 10.3%
	職場や仕事の関係で	1 20.0%	8 27.6%	16 28.6%	18 27.3%	28 38.4%	19 30.2%	90 30.8%
	幼なじみ・隣人関係	1 20.0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.3%
	学校以外の活動・習い事で	0 0%	2 6.9%	3 5.4%	5 7.6%	1 1.4%	9 14.3%	20 6.8%
	友人・知人の紹介で	0 0%	10 34.5%	14 25.0%	20 30.3%	13 17.8%	10 15.9%	67 22.9%
	兄弟姉妹の紹介で	0 0%	0 0%	2 3.6%	1 1.5%	1 1.4%	1 1.6%	5 1.7%
	見合いで（親や親族・上司の紹介を含む）	0 0%	0 0%	2 3.6%	4 6.1%	9 12.3%	13 20.6%	28 9.6%
	結婚相談所や結婚情報サービスで	0 0%	0 0%	1 1.8%	4 6.1%	3 4.1%	0 0%	8 2.7%
	街中や旅先の出会いで	0 0%	0 0%	2 3.6%	0 0%	3 4.1%	2 3.2%	7 2.4%
	アルバイト先で	2 40.0%	3 10.3%	4 7.1%	3 4.5%	2 2.7%	2 3.2%	16 5.5%
	インターネットや携帯のサイトで	0 0%	1 3.4%	0 0%	1 1.5%	0 0%	0 0%	2 0.7%
	合コンで（飲み会を含む）	0 0%	2 6.9%	5 8.9%	1 1.5%	2 2.7%	1 1.6%	11 3.8%
	その他	0 0%	1 3.4%	4 7.1%	0 0%	1 1.4%	0 0%	6 2.1%
	無回答	0 0%	0 0%	0 0%	1 1.5%	0 0%	0 0%	1 0.3%
	合計	5 100.0%	29 100.0%	56 100.0%	66 100.0%	73 100.0%	63 100.0%	292 100.0%

しかし，年齢別にみるとやや異なった傾向が浮かび上がる。男性では40歳代で「見合いで」が比較的多い。それは40－44歳で18.2%，45－49歳で18.8%である。30歳代では「職場や仕事の関係で」が比較的多く，30－34歳で45.8%，35－39歳で34.3%である。20歳代では「学校で」が比較的多く，20－24歳で66.7%，25－29歳で33.3%である。女性では40歳代で「職場や仕事の関係で」が比較的多く，40－44歳で38.4%，45－49歳で30.2%である。また女性の40歳代では「見合いで」も比較的多く，40－44歳で12.3%，45－49歳で20.6%である。30歳代から下になると「友人・知人の紹介で」が比較的多く，25－29歳で34.5%，30－34歳で25.0%，35－39歳で30.3%である。

以上の年齢別の相違は，「見合い結婚」から「職場結婚」を経て「友人・知人の紹介による結婚」へという，全国調査でみられた主要な結婚形態の変遷をおおむね反映していると考えられる。ただし，注目すべきは25－34歳で「合コンで」知り合った者が比較的多いことであり，25－29歳で6.9%，30－34歳で8.9%となっている。この年齢層では，「合コン」は「見合いで」や「結婚相談所や結婚情報サービスで」よりも大きな割合を示している。いわゆる「婚活」の具体的な方法の中で「合コン」が比較的大きな割合を示していることは，比較的若い未婚男女のマッチング方法としてのより大きな有効性を示唆している可能性がある。

表３－１－３は「結婚相手と知り合ったきっかけ」を性別・結婚した年齢別に集計した結果である。これをみると，大きな特徴は男女ともに25－34歳の年齢層でいわゆる「婚活」によって結婚相手と知り合った者が比較的多いことである。「見合いで」「結婚相談所や結婚情報サービスで」「合コンで」を合計した割合は男性の25－29歳で18.2%，30－34歳で22.6%，女性の25－29歳で16.7%，30－34歳で42.2%である。とくに女性の30－34歳で「見合いで」が34.6%と大きな割合を占めている。これらをまとめると，男女ともに25－34歳では「婚活」が結婚相手と知り合うきっかけとして重要な役割を果たし，中でも「見合い」の役割は比較的大きい。ただし，35

表３－１－３　結婚相手と知り合ったきっかけ

		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
男性	学校で		10 33.3%	10 13.0%	1 3.2%	0 0%	0 0%	21 14.0%
	職場や仕事の関係で		9 30.0%	27 35.1%	10 32.3%	3 30.0%	1 50.0%	50 33.3%
	幼なじみ・隣人関係		1 3.3%	0 0%	1 3.2%	0 0%	0 0%	2 1.3%
	学校以外の活動・習い事で		0 0%	5 6.5%	0 0%	0 0%	0 0%	5 3.3%
	友人・知人の紹介で		6 20.0%	16 20.8%	8 25.8%	3 30.0%	0 0%	33 22.0%
	見合いで(親や親族・上司の紹介を含む)		0 0%	10 13.0%	4 12.9%	1 10.0%	1 50.0%	16 10.7%
	結婚相談所や結婚情報サービスで		0 0%	0 0%	2 6.5%	0 0%	0 0%	2 1.3%
	街中や旅先の出会いで		2 6.7%	2 2.6%	1 3.2%	1 10.0%	0 0%	6 4.0%
	アルバイト先で		2 6.7%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 1.3%
	インターネットや携帯のサイトで		0 0%	0 0%	2 6.5%	2 20.0%	0 0%	4 2.7%
	合コンで（飲み会を含む）		0 0%	4 5.2%	0 0%	0 0%	0 0%	4 2.7%
	その他		0 0%	3 3.9%	1 3.2%	0 0%	0 0%	4 2.7%
	無回答		0 0%	0 0%	1 3.2%	0 0%	0 0%	1 0.7%
	合計		30 100.0%	77 100.0%	31 100.0%	10 100.0%	2 100.0%	150 100.0%
女性	学校で	1 25.0%	13 10.8%	14 11.1%	2 7.7%	0 0%	0 0%	30 10.3%
	職場や仕事の関係で	1 25.0%	42 35.0%	38 30.2%	5 19.2%	3 27.3%	1 20.0%	90 30.8%
	幼なじみ・隣人関係	0 0%	1 0.8%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.3%
	学校以外の活動・習い事で	0 0%	7 5.8%	10 7.9%	2 7.7%	1 9.1%	0 0%	20 6.8%
	友人・知人の紹介で	2 50.0%	28 23.3%	27 21.4%	5 19.2%	4 36.4%	1 20.0%	67 22.9%
	兄弟姉妹の紹介で	0 0%	2 1.7%	3 2.4%	0 0%	0 0%	0 0%	5 1.7%
	見合いで(親や親族・上司の紹介を含む)	0 0%	7 5.8%	12 9.5%	9 34.6%	0 0%	0 0%	28 9.6%
	結婚相談所や結婚情報サービスで	0 0%	1 8%	2 1.6%	1 3.8%	3 27.3%	1 20.0%	8 2.7%
	街中や旅先の出会いで	0 0%	2 1.7%	5 4.0%	0 0%	0 0%	0 0%	7 2.4%
	アルバイト先で	0 0%	12 10.0%	3 2.4%	0 0%	0 0%	1 20.0%	16 5.5%
	インターネットや携帯のサイトで	0 0%	1 0.8%	0 0%	1 3.8%	0 0%	0 0%	2 0.7%
	合コンで（飲み会を含む）	0 0%	2 1.7%	7 5.6%	1 3.8%	0 0%	1 20.0%	11 3.8%
	その他	0 0%	1 0.8%	5 4.0%	0 0%	0 0%	0 0%	6 2.1%
	無回答	0 0%	1 0.8%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.3%
	合計	4 100.0%	120 100.0%	126 100.0%	26 100.0%	11 100.0%	5 100.0%	292 100.0%

－39歳から上の年齢層では男女ともに「見合い」で結婚相手と知り合った者がほとんどいない。通常,「見合い」は自然な出会いによって結婚相手を見つけにくい者がおこなう配偶者選択の方法と考えられるが，この結果は年齢が高くなると「見合い」の成功率は限られてくることを示唆しているのかもしれない。

３－２．知り合った当時の結婚相手の就労状況と結婚当時の回答者の就労状況

すでに述べたように先行研究では雇用形態と婚姻の間には密接な相関関係があることが明らかにされている。我々の調査でもこれを確かめるために質問項目を設けた。

表３－２－１は「知り合った当時の結婚相手の就労状況」を性別・結婚した年齢別に集計した結果である。これによると，全体的には男女ともに知り合った当時に正規雇用で仕事をしていた相手と結婚した者がもっとも多い。とくに女性では正規雇用の相手と結婚した者は８割に達する。男性では正規雇用で仕事をしていた相手と結婚した者はやや下がって，64.7%である。結婚した年齢別では男女ともに20歳代で結婚した者の中には知り合った当時「学生」であった相手と結婚した者が比較的多い。これは年齢から考えて自然な結果であろう。なお知り合った当時に「無職」であった相手と結婚した者は男女ともに皆無である。逆に言えば「無職」であった者は結婚相手として選ばれていない。

表３－２－２は回答者の結婚当時の就労状況を性別・結婚した年齢別に集計した結果である。これをみると，全体的には男女ともに結婚当時の就労状況では正規雇用者が圧倒的に多い。とくに男性では85.3%が結婚した当時に正規雇用の仕事をしていた。これに対し,「パート・アルバイト」や「派遣・契約」といった非正規の仕事をしていた者は合計５%程度に過ぎなかった。女性でも結婚当時に正規雇用であった者は74%であるが,「パート・アルバイト」や「派遣・契約」は男性よりも多く，16.1%であった。結婚した年齢別では，男性ではいずれの結婚年齢においても正規

表３－２－１　知り合った当時の結婚相手の就労状況

		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
男性	正規の職員・社員		15 50.0%	53 68.8%	22 71.0%	6 60.0%	1 50.0%	97 64.7%
	パート・アルバイト		6 20.0%	8 10.4%	4 12.9%	2 20.0%	0 0%	20 13.3%
	派遣・契約		0 0%	5 6.5%	3 9.7%	1 10.0%	1 50.0%	10 6.7%
	自営業・家族従業員		0 0%	0 0%	1 3.2%	1 10.0%	0 0%	2 1.3%
	学生		9 30.0%	7 9.1%	0 0%	0 0%	0 0%	16 10.7%
	無回答		0 0%	4 5.2%	1 3.2%	0 0%	0 0%	5 3.3%
	合計		30 100.0%	77 100.0%	31 100.0%	10 100.0%	2 100.0%	150 100.0%
女性	正規の職員・社員	4 100.0%	91 75.8%	99 78.6%	22 84.6%	11 100.0%	5 100.0%	232 79.5%
	パート・アルバイト	0 0%	6 5.0%	4 3.2%	0 0%	0 0%	0 0%	10 3.4%
	派遣・契約	0 0%	1 0.8%	6 4.8%	0 0%	0 0%	0 0%	7 2.4%
	自営業・家族従業員	0 0%	5 4.2%	6 4.8%	4 15.4%	0 0%	0 0%	15 5.1%
	学生	0 0%	13 10.8%	7 5.6%	0 0%	0 0%	0 0%	20 6.8%
	無回答	0 0%	4 3.3%	4 3.2%	0 0%	0 0%	0 0%	8 2.7%
	合計	4 100.0%	120 100.0%	126 100.0%	26 100.0%	11 100.0%	5 100.0%	292 100.0%

雇用の職に就いていた者の割合は圧倒的に高い。ただ30－34歳で結婚した者については「派遣・契約」の仕事をしていた者が１割程度いた。女性では30－34歳で結婚した者までは正規雇用が75％前後と非常に多いが，35－39歳ではそれは54.5％とやや大きな減少を見せる。35－39歳で結婚した者では「パート・アルバイト」の仕事をしていた者は18.2％と他の年齢層に比べてやや高い割合になっている。なお女性では結婚当時に「無職」だった者はわずかながらもいるが，男性ではそれは皆無である。

表３－２－３は「結婚当時の回答者の就労状況」と「知り合った当時の結婚相手の就労状況」をクロス集計した結果である。これをみると，男女ともに結婚当時に正規雇用で仕事をしていた者は正規雇用で仕事をしていた相手と結婚した割合が非常に高い。ただし，女性では正規雇用者でなく

表３－２－２　回答者の結婚当時の就労状況

		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
男性	正規の職員・社員		23 76.7%	68 88.3%	25 80.6%	10 100.0%	2 100.0%	128 85.3%
	パート・アルバイト		3 10.0%	1 1.3%	0 0%	0 0%	0 0%	4 2.7%
	派遣・契約		0 0%	1 1.3%	3 9.7%	0 0%	0 0%	4 2.7%
	自営業・家族従業員		1 3.3%	3 3.9%	2 6.5%	0 0%	0 0%	6 4.0%
	学生		3 10.0%	2 2.6%	1 3.2%	0 0%	0 0%	6 4.0%
	無回答		0 0%	2 2.6%	0 0%	0 0%	0 0%	2 1.3%
	合計		30 100.0%	77 100.0%	31 100.0%	10 100.0%	2 100.0%	150 100.0%
女性	正規の職員・社員	2 50.0%	90 75.0%	94 74.6%	19 73.1%	6 54.5%	5 100.0%	216 74.0%
	パート・アルバイト	0 0%	9 7.5%	16 12.7%	3 11.5%	2 18.2%	0 0%	30 10.3%
	派遣・契約	0 0%	10 8.3%	6 4.8%	1 3.8%	0 0%	0 0%	17 5.8%
	自営業・家族従業員	0 0%	1 0.8%	2 1.6%	1 3.8%	1 9.1%	0 0%	5 1.7%
	学生	0 0%	2 1.7%	4 3.2%	2 7.7%	2 18.2%	0 0%	10 3.4%
	無職	2 50.0%	8 6.7%	2 1.6%	0 0%	0 0%	0 0%	12 4.1%
	無回答	0 0%	0 0%	2 1.6%	0 0%	0 0%	0 0%	2 0.7%
	合計	4 100.0%	120 100.0%	126 100.0%	26 100.0%	11 100.0%	5 100.0%	292 100.0%

とも正規雇用者の相手と結婚した割合が，正規雇用者の場合に劣らず高い。これに対し，男性では「派遣・契約」を除いて，正規雇用で仕事していないと正規雇用者の相手と結婚する割合は低い。これはやはり，男性の場合では正規雇用の仕事もしくは「派遣・契約」の仕事に従事していないと，正規雇用職の女性からみて配偶者選択の対象とならないことを意味しているのかもしれない。

以上を通して言えることは，我々の調査でも雇用形態と配偶者選択に強い関連性がみられることである。第１に我々の調査では既婚者は男女ともに正規雇用職に就いていた者を結婚相手としてもっとも多く選んでいる。女性ではその傾向がとくに強い。第２に結婚当時の就労状況では男女とも

表3－2－3　結婚当時の回答者の就労状況と知り合った当時の結婚相手の就労状況のクロス

		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
男性	正規の職員・社員		23 76.7%	68 88.3%	25 80.6%	10 100.0%	2 100.0%	128 85.3%
	パート・アルバイト		3 10.0%	1 1.3%	0 0%	0 0%	0 0%	4 2.7%
	派遣・契約		0 0%	1 1.3%	3 9.7%	0 0%	0 0%	4 2.7%
	自営業・家族従業員		1 3.3%	3 3.9%	2 6.5%	0 0%	0 0%	6 4.0%
	学生		3 10.0%	2 2.6%	1 3.2%	0 0%	0 0%	6 4.0%
	無回答		0 0%	2 2.6%	0 0%	0 0%	0 0%	2 1.3%
	合計		30 100.0%	77 100.0%	31 100.0%	10 100.0%	2 100.0%	150 100.0%
女性	正規の職員・社員	2 50.0%	90 75.0%	94 74.6%	19 73.1%	6 54.5%	5 100.0%	216 74.0%
	パート・アルバイト	0 0%	9 7.5%	16 12.7%	3 11.5%	2 18.2%	0 0%	30 10.3%
	派遣・契約	0 0%	10 8.3%	6 4.8%	1 3.8%	0 0%	0 0%	17 5.8%
	自営業・家族従業員	0 0%	1 0.8%	2 1.6%	1 3.8%	1 9.1%	0 0%	5 1.7%
	学生	0 0%	2 1.7%	4 3.2%	2 7.7%	2 18.2%	0 0%	10 3.4%
	無職	2 50.0%	8 6.7%	2 1.6%	0 0%	0 0%	0 0%	12 4.1%
	無回答	0 0%	0 0%	2 1.6%	0 0%	0 0%	0 0%	2 0.7%
	合計	4 100.0%	120 100.0%	126 100.0%	26 100.0%	11 100.0%	5 100.0%	292 100.0%

に正規雇用者がもっとも多い。男性ではその傾向がより強い。第3にその結果として，既婚者のカップルには正規雇用者どうしの組み合わせがもっとも多い。第4に男女ともに安定した雇用形態で就労していないと結婚相手として選ばれることは少なくなる。とくに男性ではその傾向が強い。結婚相手として選ばれた男性の圧倒的多数は正規雇用者であり，その他の就業形態で結婚した者は非常に少ない。とくに「無職」の男性は結婚相手として選ばれていない。

3－3．結婚を決めたきっかけ

結婚をした人はどのようなきっかけで結婚を決断したのだろうか。これは配偶者選択過程に関わる大変重要な調査項目であると我々は考える。それによって，どのような要因が「結婚の決め手」となることが多いのかを知ることができるからである。全国調査である「出生動向基本調査」は長らくこの問題を調べてこなかったが，2010年の調査で初めてこれを調査項目とした。現在公表されているのは「妻の結婚年齢」別にみた集計結果である（表3－3－1）。これによると，夫妻が最終的に結婚を決めたきっかけについては，妻の結婚年齢が25歳未満の夫婦では「子どもができた」ことを挙げる夫婦がもっとも多く，半数を占める（50.0%）。妻の結婚年齢が25歳以上になるとこの要因は減り，「年齢的に適当な時期だと考えた」が半数を超える。

我々の調査でもまた，結婚をした者に対して結婚を決めたのはどのようなことがきっかけになったからかと尋ね，複数回答で要因を選択してもらった[17]。

表3－3－1　「妻の結婚年齢」別にみた夫妻が最終的に結婚を決めたきっかけ（「2010年出生動向基本調査」）

最終的に結婚を決めたきっかけ	妻の結婚年齢				
	25歳未満	25-29歳	30-34歳	35歳以上	総数
結婚資金の用意ができた	5.0	5.2	2.5	2.6	4.2
結婚生活のための経済的基盤ができた	8.5	12.6	12.0	12.0	11.4
自分または相手の仕事の事情	4.6	12.8	11.6	8.5	10.2
できるだけ早く一緒に暮らしたかった	28.1	22.7	19.3	30.8	23.9
年齢的に適当な時期だと感じた	24.6	53.9	57.8	55.6	48.3
できるだけ早く子どもがほしかった	5.8	7.2	8.7	8.5	7.4
子どもができた	50.0	12.4	11.6	6.0	20.2
友人や同年代の人たちの結婚	1.9	3.1	2.2	1.7	2.5
親や周囲のすすめ	5.8	6.0	9.5	9.4	7.1
その他	3.5	5.4	6.2	9.4	5.5

注：対象は前回調査時点より過去5年間に結婚した初婚どうしの夫婦。
出所：国立社会保障・人口問題研究所，2011，p. 3。

表３－３－２は男性回答者の「結婚を決めたきっかけ」を結婚した年齢別に集計した結果である。これをみると，全体的にはもっとも選択率が高くなった要因は「相手と一緒に暮らしたいと思ったので」であり，３分の２（66.7%）の回答者がこれを選択した。これは，２－４で述べた「結婚を決めたときに考えた最大の利点」の回答で「好きな人と一緒に暮らせる」がもっとも多かったことと整合する結果である。これと比べるとその他の要因はずっと選択率が低くなるが，10%を超える要因を挙げると次のようになる。すなわち，２番目に「自分の年齢を考えて」の31.3%，３番目に「この機会を逃したくないと思ったので」の28.0%，４番目に「相手の年齢を考えて」の22.7%，５番目に「家族・子どもが欲しくなったので」と「交際期間の長さを考えて」が同率で17.3%，７番目に「子どもができたので」の12.7%であった。

結婚した年齢別では，結婚した年齢に関係なく，「相手と一緒に暮らしたいと思ったので」の選択率はもっとも高い。このことが第一に注目される特徴である。しかし，その他の要因については結婚した年齢によって若干の相違がある。たとえば，20－24歳で結婚した者では「子どもができたので」の割合が比較的高く，26.7%となっている。また30－34歳で結婚した者では「相手の年齢を考えて」が35.5%であり，35－39歳で結婚した者では「この機会を逃したくないと思ったので」が50.0%といずれも他の年齢層に比べてやや高い割合を示している。さらに30歳以上の年齢で結婚した者では「親が心配しているので」の割合が比較的大きくなっている。

表３－３－３は女性回答者の「結婚を決めたきっかけ」を結婚した年齢別に集計した結果である。これをみると，全体的にもっとも選択率が高かった要因は男性の場合と同様に「相手と一緒に暮らしたいと思ったので」であり，６割（60.8%）の回答者がこれを選択した。２番目の要因は男性と同様に「自分の年齢を考えて」であるが，その割合は40.5%と男性の場合よりも高い割合を示している。これら２つの要因と比べるとその他の要因は選択率が低いが，10%を超える要因を挙げると次のようになる。すなわ

表３－３－２　結婚を決めたきっかけ（男性）

結婚を決めたきっかけ		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
男性	自分の年齢を考えて		3 10.0%	20 26.0%	16 51.6%	7 70.0%	1 50.0%	47 31.3%
	相手の年齢を考えて		4 13.3%	16 20.8%	11 35.5%	2 20.0%	1 50.0%	34 22.7%
	交際期間の長さを考えて		5 16.7%	14 18.2%	4 12.9%	3 30.0%	0 0%	26 17.3%
	相手と一緒に暮らしたいと思ったので		19 63.3%	53 68.8%	20 64.5%	6 60.0%	2 100.0%	100 66.7%
	ライバルが出現したので		0 0%	2 2.6%	0 0%	0 0%	0 0%	2 1.3%
	この機会を逃したくないと思ったので		6 20.0%	21 27.3%	9 29.0%	5 50.0%	1 50.0%	42 28.0%
	家族・子どもが欲しくなったので		6 20.0%	10 13.0%	8 25.8%	2 20.0%	0 0%	26 17.3%
	友達や仲間の多くが結婚したので		2 6.7%	4 5.2%	1 3.2%	1 10.0%	0 0%	8 5.3%
	友人・知人に薦められて		1 3.3%	3 3.9%	1 3.2%	0 0%	0 0%	5 3.3%
	転勤・海外赴任が決まったので		0 0%	6 7.8%	1 3.2%	0 0%	0 0%	7 4.7%
	相手に結婚を迫られて		1 3.3%	6 7.8%	2 6.5%	0 0%	0 0%	9 6.0%
	親が心配しているので		0 0%	3 3.9%	7 22.6%	3 30.0%	1 50.0%	14 9.3%
	子どもができたので		8 26.7%	6 7.8%	3 9.7%	2 20.0%	0 0%	19 12.7%
	生活に変化が欲しくなったので		0 0%	6 7.8%	3 9.7%	3 30.0%	0 0%	12 8.0%
	経済的に楽になると思ったので		0 0%	1 1.3%	2 6.5%	0 0%	0 0%	3 2.0%
	生活が便利になると思ったので		2 6.7%	4 5.2%	2 6.5%	0 0%	0 0%	8 5.3%
	親の年齢や健康を考えて		0 0%	2 2.6%	6 19.4%	0 0%	0 0%	8 5.3%
	その他		3 10.0%	0 0%	1 3.2%	0 0%	0 0%	4 2.7%
	合計	0	30	77	31	10	2	150

注：回答は複数回答。パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されている。

表３－３－３　結婚を決めたきっかけ（女性）

結婚を決めたきっかけ		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
女性	自分の年齢を考えて	0 0%	19 16.0%	70 55.6%	19 73.1%	6 54.5%	4 80.0%	118 40.5%
	相手の年齢を考えて	0 0%	14 11.8%	10 7.9%	4 15.4%	0 0%	2 40.0%	30 10.3%
	交際期間の長さを考えて	0 0%	20 16.8%	28 22.2%	5 19.2%	0 0%	2 40.0%	55 18.9%
	相手と一緒に暮らしたいと思ったので	2 50.0%	78 65.5%	75 59.5%	12 46.2%	9 81.8%	1 20.0%	177 60.8%
	ライバルが出現したので	0 0%	0 0%	1 0.8%	2 7.7%	0 0%	0 0%	3 1.0%
	この機会を逃したくないと思ったので	0 0%	15 12.6%	27 21.4%	3 11.5%	6 54.5%	0 0%	51 17.5%
	家族・子どもが欲しくなったので	0 0%	14 11.8%	26 20.6%	7 26.9%	6 54.5%	2 40.0%	55 18.9%
	友達や仲間の多くが結婚したので	1 25.0%	6 5.0%	10 7.9%	1 3.8%	0 0%	0 0%	18 6.2%
	友人・知人に薦められて	0 0%	4 3.4%	3 2.4%	3 11.5%	0 0%	0 0%	10 3.4%
	転勤・海外赴任が決まったので	0 0%	4 3.4%	5 4.0%	1 3.8%	0 0%	0 0%	10 3.4%
	相手に結婚を迫られて	0 0%	14 11.8%	13 10.3%	4 15.4%	1 9.1%	1 20.0%	33 11.3%
	親が心配しているので	0 0%	10 8.4%	29 23.0%	11 42.3%	4 36.4%	2 40.0%	56 19.2%
	子どもができたので	3 75.0%	18 15.1%	11 8.7%	2 7.7%	1 9.1%	0 0%	35 12.0%
	生活に変化が欲しくなったので	0 0%	9 7.6%	9 7.1%	4 15.4%	1 9.1%	0 0%	23 7.9%
	経済的に楽になると思ったので	0 0%	7 5.9%	7 5.6%	1 3.8%	2 18.2%	1 20.0%	18 6.2%
	生活が便利になると思ったので	0 0%	1 0.8%	1 0.8%	1 3.8%	0 0%	0 0%	3 1.0%
	親の年齢や健康を考えて	0 0%	0 0%	10 7.9%	5 19.2%	2 18.2%	1 20.0%	18 6.2%
	その他	0 0%	6 5.0%	5 4.0%	4 15.4%	2 18.2%	1 20.0%	18 6.2%
	合計	4	119	126	26	11	5	291

注：回答は複数回答。パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されている。

ち，３番目に「親が心配しているので」の19.2%，４番目に「家族・子どもが欲しくなったので」と「交際期間の長さを考えて」が同率で18.9%，６番目に「この機会を逃したくないと思ったので」の17.5%，７番目に「子どもができたので」の12.0%であった。これらをみると，順位と割合に多少の相違はあるが，男女ともに結婚を決めたきっかけとなった主要な要因はほぼ同じだと考えてよいだろう。

結婚した年齢別にみると，女性では結婚した年齢によって「相手と一緒に暮らしたいと思ったので」以外の要因がもっとも割合の高い要因になっている。たとえば，16－19歳で結婚した者では「子どもができたので」がもっとも高く，30－34歳と40－44歳で結婚した者では「自分の年齢を考えて」がもっとも高い。女性では，25歳以上の年齢で結婚した者については「自分の年齢を考えて」が非常に高い割合を示し，25－29歳で55.6%，30－34歳で73.1%となる。これは全国調査と一致する傾向である。また30歳以上の年齢で結婚した者については「親が心配しているので」の割合が比較的高く，さらに35－39歳で結婚した者では「この機会を逃したくないと思ったので」と「家族・子どもが欲しくなったので」が50%を超える選択率になっている。このように女性の場合には結婚した年齢によって様々な要因が結婚を決めたきっかけとして浮上している。すでに述べたように，男性では結婚した年齢に関係なく「相手と一緒に暮らしたいと思ったので」が結婚を決めたきっかけとしてもっとも高い割合を占めており，この点で男女の間には大きな相違がある。結婚した年齢でみる限りでは，女性の結婚を決めたきっかけは男性のように単純ではないと言えるのかもしれない。

３－４．結婚相手の条件

結婚をした人は結婚を決めた当時，交際相手についてどのような要素を重視して結婚を決めたのだろうか。この問題もまた配偶者選択過程に関係する重要なテーマだと我々は考えるが，全国調査である「出生動向基本調

査」はこれを調べていない。そこで我々は調査票の中に17の選択肢を用意し，結婚を決めた当時に重視した要素を複数回答で選択してもらった。

表３－４－１は男性にとって「結婚相手の条件」だったものを結婚した年齢別に集計した結果である。これをみると，全体的にもっとも選択率が高い要素は「性格・人柄がよい」であり，７割（71.8%）の男性がこれを選択した。次いで２番目に選択率が高かった要素は「一緒にいると楽しい」であり，３分の２（67.8%）の男性がこれを選択した。その他に20%を超える要素を挙げると次の通りである。すなわち，３番目に「趣味や価値観が合う」の43.0%，４番目に「好みの容姿・ルックスである」の36.2%，５番目に「健康である」の21.5%，６番目に「自分の仕事に理解と協力がある」の20.1%であった。

結婚した年齢別にみると，結婚した年齢によって結婚を決めた当時に重視された要素に若干の相違がある。たとえば，20－24歳で結婚した者ではもっとも選択率が高い要素は「一緒にいると楽しい」の73.3%であった。30－34歳で結婚した者の間でも「一緒にいると楽しい」は「性格・人柄がよい」と同率の70.0%でもっとも選択率が高かった。35－39歳で結婚した者では「趣味や価値観が合う」が80.0%と選択率が非常に高く，「好みの容姿・ルックスである」も70%と他の年齢層で結婚した者に比べて突出して高い選択率になっている。35－39歳で結婚した男性は「性格・人柄がよい」も90%の選択率であり，性格や価値観に関する内面的な要素と容姿や容貌に関する外面的な要素の両方をともに非常に重視している。35－39歳で結婚した男性は「一緒にいると楽しい」の選択率がやや低く，この点でもまた他の年齢層で結婚した者と違いを示している。

表３－４－２は女性にとって「結婚相手の条件」だったものを結婚した年齢別に集計した結果である。これによると，男性と同様に女性でも，全体的にもっとも選択率が高い要素は「性格・人柄がよい」であり，８割の女性（79.7%）がこれを選択した。２番目に選択率が高かった要素も男性の場合と同様に「一緒にいると楽しい」の62.2%であった。以下，主要な

表３－４－１　結婚相手の条件（男性）

結婚相手の条件		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
男性	性格・人柄がよい		19 63.3%	57 74.0%	21 70.0%	9 90.0%	1 50.0%	107 71.8%
	一緒にいると楽しい		22 73.3%	51 66.2%	21 70.0%	5 50.0%	2 100.0%	101 67.8%
	趣味や価値観が合う		10 33.3%	30 39.0%	14 46.7%	8 80.0%	2 100.0%	64 43.0%
	相手に対し自分がプラスになれる		4 13.3%	10 13.0%	5 16.7%	1 10.0%	0 0%	20 13.4%
	年齢が若い		0 0%	4 5.2%	1 3.3%	0 0%	0 0%	5 3.4%
	年齢が離れていない		4 13.3%	10 13.0%	5 16.7%	1 10.0%	0 0%	20 13.4%
	好みの容姿・ルックス		11 36.7%	28 36.4%	7 23.3%	7 70.0%	1 50.0%	54 36.2%
	健康である		3 10.0%	17 22.1%	9 30.0%	2 20.0%	1 50.0%	32 21.5%
	学歴・教養がある		2 6.7%	2 2.6%	3 10.0%	2 20.0%	0 0%	9 6.0%
	安定した職業		0 0%	8 10.4%	2 6.7%	0 0%	0 0%	10 6.7%
	経済力がある		0 0%	4 5.2%	0 0%	1 10.0%	0 0%	5 3.4%
	必要以上に束縛や干渉をしない		4 13.3%	15 19.5%	7 23.3%	1 10.0%	0 0%	27 18.1%
	自分の親の賛成がある		3 10.0%	5 6.5%	5 16.7%	1 10.0%	0 0%	14 9.4%
	自分の親を気遣ってくれる		2 6.7%	10 13.0%	5 16.7%	2 20.0%	0 0%	19 12.8%
	相手の親が好意的である		2 6.7%	10 13.0%	3 10.0%	2 20.0%	0 0%	17 11.4%
	自分の仕事に理解と協力がある		6 20.0%	10 13.0%	10 33.3%	4 40.0%	0 0%	30 20.1%
	家事・育児の能力や協力姿勢がある		3 10.0%	9 11.7%	4 13.3%	1 10.0%	0 0%	17 11.4%
	その他		2 6.7%	2 2.6%	1 3.3%	0 0%	0 0%	5 3.4%
	合計		30	77	30	10	2	149

注：回答は複数回答。パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されている。

表３－４－２　結婚相手の条件（女性）

結婚相手の条件		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
女性	性格・人柄がよい	2 50.0%	95 79.2%	99 79.2%	22 84.6%	10 90.9%	4 80.0%	232 79.7%
	一緒にいると楽しい	2 50.0%	78 65.0%	78 62.4%	13 50.0%	9 81.8%	1 20.0%	181 62.2%
	趣味や価値観が合う	2 50.0%	40 33.3%	47 37.6%	9 34.6%	6 54.5%	1 20.0%	105 36.1%
	相手に対し自分がプラスになれる	0 0%	12 10.0%	9 7.2%	3 11.5%	2 18.2%	0 0%	26 8.9%
	年齢が若い	0 0%	3 2.5%	0 0%	0 0%	1 9.1%	0 0%	4 1.4%
	年齢が離れていない	1 25.0%	5 4.2%	11 8.8%	1 3.8%	2 18.2%	0 0%	20 6.9%
	好みの容姿・ルックス	0 0%	17 14.2%	22 17.6%	3 11.5%	2 18.2%	0 0%	44 15.1%
	健康である	0 0%	22 18.3%	20 16.0%	3 11.5%	4 36.4%	1 20.0%	50 17.2%
	学歴・教養がある	0 0%	15 12.5%	16 12.8%	4 15.4%	2 18.2%	0 0%	37 12.7%
	安定した職業	0 0%	51 42.5%	47 37.6%	8 30.8%	3 27.3%	2 40.0%	111 38.1%
	経済力がある	0 0%	19 15.8%	22 17.6%	7 26.9%	5 45.5%	0 0%	53 18.2%
	必要以上に束縛や干渉をしない	0 0%	25 20.8%	29 23.2%	9 34.6%	2 18.2%	0 0%	65 22.3%
	自分の親の賛成がある	0 0%	18 15.0%	20 16.0%	5 19.2%	1 9.1%	1 20.0%	45 15.5%
	自分の親を気遣ってくれる	1 25.0%	17 14.2%	19 15.2%	4 15.4%	4 36.4%	1 20.0%	46 15.8%
	相手の親が好意的である	0 0%	15 12.5%	19 15.2%	1 3.8%	1 9.1%	1 20.0%	37 12.7%
	自分の仕事に理解と協力がある	0 0%	9 7.5%	17 13.6%	4 15.4%	2 18.2%	0 0%	32 11.0%
	家事・育児の能力や協力姿勢がある	1 25.0%	17 14.2%	21 16.8%	7 26.9%	2 18.2%	3 60.0%	51 17.5%
	その他	0 0%	7 5.8%	9 7.2%	1 3.8%	1 9.1%	2 40.0%	20 6.9%
	合計	4	120	125	26	11	5	291

注：回答は複数回答。パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されている。

要素を挙げると次の通りである。すなわち，３番目に「安定した仕事に就いている」の38.1%，４番目に「趣味や価値観が合う」の36.1%，５番目に「必要以上に束縛や干渉をしない」の22.3%，６番目に「経済力がある」の18.2%が入っている。

ところで，結婚を決めた当時に女性が重視した要素の中で「安定した仕事に就いている」と「経済力がある」の割合を合計すると50.8%になる。男性ではこれらの合計は10.1%であった。これに対し，女性では半数の回答者がこれらの要素を重視している。このことはやはり注目すべき事実であろう。また女性の場合では男性の場合に比べて「好みの容姿・ルックスである」の割合は20ポイントも低く，15.1%である。つまり，女性は男性ほど容姿や容貌を結婚の条件として重視していない。このこともまた見逃すことができない傾向であろう。

結婚した年齢別にみると，女性では16－19歳で結婚した者を除くと，いずれの年齢層でも「性格・人柄がよい」の割合がもっとも高い。しかし，その他の要素に着目すると，女性の場合にも結婚した年齢によって結婚を決めた当時に重視された要素に若干の相違があることが見出せる。たとえば，20歳代と30歳代で結婚した女性の間ではいずれの年齢層でも「安定した仕事に就いている」と「経済力がある」を合計した割合は50%を超えているが，20－24歳と25－29歳で結婚した者では「安定した仕事に就いている」の割合が高く，30－34歳と35－39歳で結婚した者では「経済力がある」の割合がやや高くなっている。これらの年齢層を比較した限りでは，結婚した年齢が高くなるほど男性の経済力に対する期待が高くなる傾向がある。また35－39歳で結婚した女性の選択した要素をみると，他の年齢層で結婚した女性に比べて「性格・人柄がよい」と「一緒にいると楽しい」の選択率が非常に高く，「趣味や価値観が合う」の割合も50%を超え，「健康である」「経済力がある」「自分の親を気遣ってくれる」の割合も他の年齢層で結婚した者に比べて比較的高い。要するに35－39歳で結婚した女性はより多くの要素を考慮して結婚を決めている。この年齢層になると女性も

しがらみが多くなり，結婚を決めるに当たってもそれだけ多くの要素を考慮しなければならない人が増えるということかもしれない。

３－５．結婚相手の短所や欠点に対する考え方

人は誰でも通常，短所や欠点をもっている。完全無欠な人間はいないだろう。それでは結婚相手の短所や欠点を結婚した人びとはどのように考えていたのであろうか。配偶者選択の過程，とくに結婚の決断の過程はこのような観点からも検討できる。そのような考えに基づいて我々はまず，結婚を決めたときに結婚相手に短所や欠点があったかどうかを尋ねた。

表３－５－１は回答を性別・結婚した年齢別に集計した結果である。これをみると，男女ともに結婚相手に短所や欠点が「なかった」と回答した者は少なく,それぞれ1割以下である。興味深いのは男女ともに４分の１が「そのときにはなかった」と回答していることである。これは結婚後に結婚相手の短所や欠点に気づいたということであろう。しかし，ここで注目すべきことはやはり，男女ともに３分の２前後の者が結婚相手には短所や欠点が「あった」と回答したことである。結婚を決めたときに男女ともに大半の者が結婚相手の短所や欠点に気がついていた。このことを調査の結果は示している。年齢別にみると，男性の場合では年齢が高くなるほど「なかった」と回答した者が多い。女性の場合でも35－39歳で「なかった」がやや多く，「そのときはないと思った」がやや少ない。

それでは結婚を決めたときに結婚相手に短所や欠点があったと答えた人は，それをどのように考えていたのであろうか。我々は次にこれを尋ねた。

表３－５－２は「結婚を決めたとき結婚相手の短所や欠点をどう思ったか」を性別・結婚した年齢別に集計した結果である。これによると，全体的には男女ともに圧倒的多数の者は結婚相手の短所や欠点を許容していたことが分かる。明確な拒否反応である「気になるのでぜひ直してもらいたいと思った」は男女ともに１割以下にとどまっていた。結婚した人びとはおおむね結婚相手の短所や欠点に対して寛容な態度を示している。男性で

表３－５－１　結婚を決めたとき結婚相手に短所や欠点はあったか

結婚を決めたとき結婚相手に短所や欠点はあったか		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
男性	あった		23 76.7%	45 58.4%	22 71.0%	6 60.0%	1 50.0%	97 64.7%
	なかった		2 6.7%	8 10.4%	1 3.2%	2 20.0%	1 50.0%	14 9.3%
	そのときはないと思った		4 13.3%	23 29.9%	8 25.8%	2 20.0%	0 0%	37 24.7%
	無回答		1 3.3%	1 1.3%	0 0%	0 0%	0 0%	2 1.3%
	合計		30 100.0%	77 100.0%	31 100.0%	10 100.0%	2 100.0%	150 100.0%
女性	あった	2 50.0%	80 66.7%	89 70.6%	19 73.1%	8 72.7%	5 100.0%	203 69.5%
	なかった	0 0%	7 5.8%	10 7.9%	1 3.8%	2 18.2%	0 0%	20 6.8%
	そのときはないと思った	2 50.0%	33 27.5%	26 20.6%	6 23.1%	1 9.1%	0 0%	68 23.3%
	無回答	0 0%	0 0%	1 0.8%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.3%
	合計	4 100.0%	120 100.0%	126 100.0%	26 100.0%	11 100.0%	5 100.0%	292 100.0%

は「長所の方が短所や欠点を上回っているので気にはならなかった」と「見方を変えれば短所は長所でもあると思った」を合計すると51.9%であり，いわば「プラス思考」で相手の短所や欠点を受け入れた者が過半数を超えている。ただし，女性では「プラス思考」の者は41.8%であり，「気にはなったが，ある程度は我慢できると思った」が47.8%とこれを上回っている。この点に若干の男女差を見出すことはできる。しかし，相手の短所や欠点に明確な拒否反応を示していた人は少ない点では結婚した男女は共通の特徴を見せている。これは重要な傾向だと我々は考える。

前節において我々は結婚相手と交際する前に結婚の意欲をもっていた者，つまり「いずれ結婚するつもりだった」者について，「結婚に対する考え方」（「年齢重視派」なのか「理想重視派」なのか）を尋ねた結果をみた。

表３－５－２　結婚を決めたとき結婚相手の短所や欠点をどう思ったか

結婚相手の短所や欠点をどう思ったか		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
男性	長所の方が短所や欠点を上回っているので気にはならなかった		8 33.3%	16 32.7%	9 39.1%	1 14.3%	0 0%	34 32.7%
	見方を変えれば，短所は長所でもあると思った		6 25.0%	9 18.4%	3 13.0%	2 28.6%	0 0%	20 19.2%
	気にはなったが，ある程度は我慢できると思った		9 37.5%	18 36.7%	9 39.1%	2 28.6%	1 100.0%	39 37.5%
	気になるのでぜひ直してもらいたいと思った		0 0%	5 10.2%	2 8.7%	1 14.3%	0 0%	8 7.7%
	無回答		1 4.2%	1 2.0%	0 0%	1 14.3%	0 0%	3 2.9%
	合計		24 100.0%	49 100.0%	23 100.0%	7 100.0%	1 100.0%	104 100.0%
女性	長所の方が短所や欠点を上回っているので気にはならなかった	1 50.0%	20 25.0%	18 20.2%	6 31.6%	3 37.5%	0 0%	48 23.6%
	見方を変えれば，短所は長所でもあると思った	0 0%	15 18.8%	17 19.1%	3 15.8%	2 25.0%	0 0%	37 18.2%
	気にはなったが，ある程度は我慢できると思った	1 50.0%	38 47.5%	44 49.4%	8 42.1%	2 25.0%	4 80.0%	97 47.8%
	気になるのでぜひ直してもらいたいと思った	0 0%	7 8.8%	10 11.2%	2 10.5%	0 0%	1 20.0%	20 9.9%
	無回答	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 12.5%	0 0%	1 0.5%
	合計	2 100.0%	80 100.0%	89 100.0%	19 100.0%	8 100.0%	5 100.0%	203 100.0%

表３－５－３は「結婚に対する考え方」と「結婚相手の短所や欠点をどう思ったか」とをクロス集計した結果である。これをみると，男女ともに「ある程度の年齢までには結婚するつもり」と考えていた者の７割が「結

表３－５－３　「結婚相手と交際する前の結婚に対する考え方」と「結婚相手の短所や欠点をどう思ったか」とのクロス

結婚を決めたとき結婚相手に短所や欠点はあったか		結婚に対する考え方		合計
		「ある程度の年齢までに結婚するつもり」と考えていた	「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」と考えていた	
男性	あった	64 70.3%	28 59.6%	34 32.7%
	なかった	7 7.7%	6 12.8%	20 19.2%
	そのときはないと思った	20 22.0%	12 25.5%	39 37.5%
	無回答	0 0%	1 2.1%	3 2.9%
	合計	91 100.0%	47 100.0%	104 100.0%
女性	あった	132 71.7%	54 67.5%	48 23.6%
	なかった	12 6.5%	4 5.0%	37 18.2%
	そのときはないと思った	39 21.2%	22 27.5%	20 9.9%
	無回答	1 0.5%	0 0%	1 0.5%
	合計	184 100.0%	80 100.0%	203 100.0%

婚相手に短所や欠点があった」と答えている。このことは不思議ではない。しかし，注目されるのは「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」と考えていた者であっても男女ともに「結婚相手に短所や欠点があった」と回答した者が多いことである。それは男性で59.6%，女性では67.5%に達した。

さらに表３－５－４は「結婚相手と交際する前の結婚に対する考え方」と「結婚相手の短所や欠点をどう思ったか」をクロス集計した結果である。これによると，男性では，結婚に対する考え方によって回答の仕方に大きな相違はみられない。しかし，女性では「理想的な相手が見つかるまでは

表３－５－４　「結婚相手と交際する前の結婚に対する考え方」と「結婚相手の短所や欠点をどう思ったか」とのクロス

結婚相手の短所や欠点をどう思ったか		結婚に対する考え方		合計
		ある程度の年齢までに結婚するつもり	理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない	
男性	長所の方が短所や欠点を上回っているので気にはならなかった	23 34.8%	8 25.0%	34 32.7%
	見方を変えれば，短所は長所でもあると思った	11 16.7%	9 28.1%	20 19.2%
	気にはなったが，ある程度は我慢できると思った	27 40.9%	10 31.3%	39 37.5%
	気になるのでぜひ直してもらいたいと思った	5 7.6%	3 9.4%	8 7.7%
	無回答	0 0%	2 6.3%	3 2.9%
	合計	66 100.0%	32 100.0%	104 100.0%
女性	長所の方が短所や欠点を上回っているので気にはならなかった	26 19.7%	19 35.2%	48 23.6%
	見方を変えれば，短所は長所でもあると思った	22 16.7%	12 22.2%	37 18.2%
	気にはなったが，ある程度は我慢できると思った	72 54.5%	17 31.5%	97 47.8%
	気になるのでぜひ直してもらいたいと思った	12 9.1%	5 9.3%	20 9.9%
	無回答	0 0%	1 1.9%	1 0.5%
	合計	132 100.0%	54 100.0%	203 100.0%

結婚しなくてもかまわない」と考えていた者をみると，「長所の方が短所や欠点を上回っているので気にはならなかった」ないし「見方を変えれば，短所は長所でもあると思った」と回答した者が比較的多く，両者を合計すると６割近い。つまり，かつて結婚に対して「理想重視派」の考えであった者は「年齢重視派」の考えであった者に比べて，「プラス思考」で相手の短所や欠点を受け入れた者が多くなっている。これは意外な結果である。

しかし，これは，かつて「理想重視派」で結婚した人の中には柔軟な発想で相手の短所や欠点をみることができた人が多いことを示唆しており，注目すべき結果である。

３－６．結婚を決めたとき結婚相手を自分にとってどのように考えていたか

結婚をした人びとは，相手との結婚を決めたときに結婚相手を自分にとってどのように考えていたのだろうか。この問題も結婚の決断の過程に関する重要な検討事項である。そこで我々は調査票の中に質問を用意し，結婚を決めたときに結婚相手を自分にとってどのように考えていたかを結婚した人に対して尋ねた。

ところで，全国調査である「出生動向基本調査」の「独身者調査」は毎回，独身にとどまっている理由として，男女ともに25－34歳の年齢層では「適当な相手に巡り会わない」ことを挙げる者がもっとも多いことを明らかにしてきた。既婚者を対象とした我々の調査でも，結婚相手と交際する前に独身でいた最大の理由としては「適当な相手と巡り会わなかったから」という回答がもっとも大きな割合であった。したがって，独身の状態から脱して結婚をした人にはまさに「適当な相手」と巡り会った人が多いのだろうと想定できる。

しかし，そこでいう「適当な相手」とは一体どのような相手を指すのであろうか。よく考えると，「適当な相手」はかなり漠然とした言葉である。その理由は「適当」という言葉の意味が曖昧であるからである。この言葉は「過不足なく丁度よい」という意味で「理想に近い」というニュアンスを含んでいる一方で，「身の丈にあった」ないし「相応の」という意味で使用されることも多い。

そこで我々は思考をシンプルにするため，「適当な相手」という言葉をあえて使用せず，これを二つに分けて考えることにした。一つは「理想の相手である」という見方である。もう一つは「自分にとっては相応の相手」という意味で「似合いの相手である」という見方を設定した。「理想の相

手」という場合にはまず自分が想定する理想や条件が基準として存在し，これを満たした相手であるというイメージが強くなる。これに対して「似合いの相手」という場合には，自分の性格や魅力・価値を顧みてそれに見合った相手であるというイメージが前面に出る。いいかえると「理想の相手」の場合には自分のこだわりを満たしてくれる相手という意味合いが強いが，「似合いの相手」という場合には「第三者的な観点」から自分にふさわしいと見なされる相手という意味合いが強くなる。

表３－６－１は「結婚を決めたとき結婚相手を自分にとってどのように考えていたか」を性別・結婚した年齢別に集計した結果である。これによると，全体的には「似合いの相手である」と回答した者が男性では70.7%，女性では76.0%であった。これに対して結婚相手を「理想の相手である」と回答した者は男性で28.0%，女性で22.3%であった。つまり，男女ともに大半の者は結婚相手を自分にとって「似合いの相手」だと考えていた。結婚した年齢別にみても，どの年齢層でもほぼ同じ傾向を見出せる。

表３－６－１　結婚を決めたとき結婚相手を自分にとってどのように考えていたか

結婚相手を自分にとってどのように考えていたか		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
男性	「理想の相手」である		9 30.0%	19 24.7%	10 32.3%	3 30.0%	1 50.0%	42 28.0%
	「似合の相手」である		20 66.7%	57 74.0%	21 67.7%	7 70.0%	1 50.0%	106 70.7%
	無回答		1 3.3%	1 1.3%	0 0%	0 0%	0 0%	2 1.3%
	合計		30 100.0%	77 100.0%	31 100.0%	10 100.0%	2 100.0%	150 100.0%
女性	「理想の相手」である	1 25.0%	23 19.2%	35 27.8%	4 15.4%	1 9.1%	1 20.0%	65 22.3%
	「似合の相手」である	3 75.0%	95 79.2%	89 70.6%	21 80.8%	10 90.9%	4 80.0%	222 76.0%
	無回答	0 0%	2 1.7%	2 1.6%	1 3.8%	0 0%	0 0%	5 1.7%
	合計	4 100.0%	120 100.0%	126 100.0%	26 100.0%	11 100.0%	5 100.0%	292 100.0%

表３－６－２は「結婚相手と交際する前の結婚に対する考え方」と「結婚を決めたとき結婚相手を自分にとってどのように考えていたか」をクロス集計した結果である。これをみると,「結婚相手と交際する前の結婚に対する考え方」に関係なく,「似合いの相手である」と回答する者が多い。ただ「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」と考えていた男性では「理想の相手である」と回答した者が相対的に多くなっている。

しかし,「理想の相手である」と考えた人と「似合いの相手である」と考えた人ではその後の結婚生活に満足度の違いはないのか。この点についても調査結果を述べたい。表３－６－３は「結婚を決めたとき結婚相手をどのように考えていたか」と「現在の結婚生活に満足しているか」をクロス集計した結果である。これをみると，興味深い傾向が現れている。それ

表３－６－２　「結婚相手と交際する前の結婚に対する考え方」と「結婚を決めたとき結婚相手を自分にとってどのように考えていたか」とのクロス

結婚相手を自分にとってどのように考えていたか		結婚に対する考え方		合計
		ある程度の年齢までには結婚するつもり	理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない	
男性	「理想の相手」である	17 18.7%	19 40.4%	36 26.1%
	「似合の相手」である	73 80.2%	27 57.4%	100 72.5%
	無回答	1 1.1%	1 2.1%	2 1.4%
	合計	91 100.0%	47 100.0%	138 100.0%
女性	「理想の相手」である	37 20.1%	22 27.5%	59 22.3%
	「似合の相手」である	144 78.3%	58 72.5%	202 76.5%
	無回答	3 1.6%	0 0%	3 1.1%
	合計	184 100.0%	80 100.0%	264 100.0%

表３－６－３　「結婚を決めたとき結婚相手をどのように考えていたか」と「現在の結婚生活に満足しているか」とのクロス

現在の結婚生活に満足しているか		結婚を決めたとき結婚相手を自分にとってどのように考えていたか			合　計
		理想の相手である	似合の相手である	無回答	
男性	満足している	34 81.0%	41 39.0%	0 0%	75 50.3%
	どちらかといえば満足	7 16.7%	48 45.7%	1 50.0%	56 37.6%
	どちらかといえば不満	1 2.4%	13 12.4%	0 0%	14 9.4%
	不満である	0 0%	1 1.0%	0 0%	1 0.7%
	無回答	0 0%	2 1.9%	1 50.0%	3 2.0%
	合計	42 100.0%	105 100.0%	2 100.0%	149 100.0%
女性	満足している	33 52.4%	80 37.7%	0 0%	113 40.5%
	どちらかといえば満足	22 34.9%	99 46.7%	3 75.0%	124 44.4%
	どちらかといえば不満	4 6.3%	22 10.4%	0 0%	26 9.3%
	不満である	3 4.8%	10 4.7%	0 0%	13 4.7%
	無回答	1 1.6%	1 0.5%	1 25.0%	3 1.1%
	合計	63 100.0%	212 100.0%	4 100.0%	279 100.0%

は，結婚を決めたときに結婚相手を「理想の相手である」であると考えていた者では「似合いの相手である」と考えていた者よりも現在の結婚生活の満足度がより高いことである。たとえば,「理想の相手である」と考えていた男性では「満足している」と答えた者は81.0%に達し，女性の場合でも52.4%と過半数を超えている。もっとも，結婚を決めたときに結婚相手を「似合いの相手である」であると考えていた者でも現在の結婚生活に不満を表明する者は男女ともに少ない。彼らの間でも「満足している」と「どちらかといえば満足」を合計した割合は男性では84.7%，女性では

84.4％と非常に高い。この点では彼らの結婚生活に対する満足度は結婚を決めたときに結婚相手を「理想の相手である」であると考えていた者とまったく同程度である。しかし，結婚を決めたときに結婚相手を「似合いの相手である」であると考えていた者の間では「どちらかといえば満足」と答えた者が相対的に多く，満足度の度合いは一段階低いと言える。

３－７．結婚前に相手との交際や結婚についての迷いや悩みについて

結婚は人びとの人生にとって重要な決定である。結婚相手との交際の過程や結婚の決断に至る過程では，相手との交際や結婚について迷ったり悩んだりすることはよくあることだと考えられる。結婚をした人びとはそのような状況をどのように乗り切ってきたのだろうか。このような問題を検討するために我々はいくつかの質問を設定し，結婚をした人にこれを尋ねた。最初に我々は，結婚前に相手との交際や結婚について迷ったり悩んだりしたことはあるかを尋ねた。

表３－７－１は「結婚前に相手との交際や結婚について迷ったり悩んだりしたことはあるか」を性別・結婚した年齢別に集計した結果である。これによると，全体的には男性では「ある」と回答した者と「ない」と回答した者がほぼ半々であるが，女性では「ある」と回答した者が「ない」と回答した者を大きく上回る結果になった。結婚した年齢別では男性の30－34歳で「ある」がやや多く，35－39歳で「ない」がやや多い。女性では35－39歳で「ある」が非常に多い。

次に我々は，その問題をどのように解決したかをみるため，結婚前に相手との交際や結婚について誰かに相談したことがあるかを尋ねた。

表３－７－２は「結婚前に相手との交際や結婚について誰かに相談したことがあるか」を性別・結婚した年齢別に集計した結果である。これをみると，全体的には男女の回答に真逆の傾向が現れている。すなわち，男性では相談をしたことが「ない」と回答した者が６割であるのに対し，女性では逆に相談をしたことが「ある」と回答した者が６割に近い。前問の結

表３－７－１　結婚前に相手との交際や結婚について迷ったことがあるか

迷いの有無		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
男性	ある		12 40.0%	40 51.9%	18 58.1%	4 40.0%	1 50.0%	75 50.0%
	ない		17 56.7%	37 48.1%	13 41.9%	6 60.0%	1 50.0%	74 49.3%
	無回答		1 3.3%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.7%
	合計		30 100.0%	77 100.0%	31 100.0%	10 100.0%	2 100.0%	150 100.0%
女性	ある	1 25.0%	69 57.5%	86 68.3%	18 69.2%	9 81.8%	5 100.0%	188 64.4%
	ない	3 75.0%	51 42.5%	39 31.0%	8 30.8%	2 18.2%	0 0%	103 35.3%
	無回答	0 0%	0 0%	1 0.8%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.3%
	合計	4 100.0%	120 100.0%	126 100.0%	26 100.0%	11 100.0%	5 100.0%	292 100.0%

表３－７－２　結婚前に相手との交際や結婚について誰かに相談したことがあるか

相談の有無		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
男性	ある		10 33.3%	31 40.3%	14 45.2%	0 0%	1 50.0%	56 37.3%
	ない		19 63.3%	46 59.7%	17 54.8%	10 100.0%	1 50.0%	93 62.0%
	無回答		1 3.3%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.7%
	合計		30 100.0%	77 100.0%	31 100.0%	10 100.0%	2 100.0%	150 100.0%
女性	ある	3 75.0%	62 51.7%	80 63.5%	17 65.4%	5 45.5%	4 80.0%	171 58.6%
	ない	1 25.0%	58 48.3%	45 35.7%	9 34.6%	6 54.5%	1 20.0%	120 41.1%
	無回答	0 0%	0 0%	1 0.8%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.3%
	合計	4 100.0%	120 100.0%	126 100.0%	26 100.0%	11 100.0%	5 100.0%	292 100.0%

果と併せると，男性に比べて女性では結婚前に相手との交際や結婚について迷ったり悩んだりしたことがある者がより多く，またこれを誰かに相談した者がより多いということになる。結婚した年齢別では，男性の35－39歳では誰かに相談したことがある者は皆無であり，すべて独力で対処したということになる。女性でも35－39歳は誰かに相談した者はやや少ない。

結婚前に相手との交際や結婚について誰かに相談したことがあると答えた人は，悩みや問題を誰に相談したのであろうか。次に我々はこれを複数回答で尋ねた。

表３－７－３はその回答の性別･結婚した年齢別に集計した結果である。これをみると，全体的に男女ともにもっとも選択率が高かった相談相手は「友人・知人」であり，男性の６割強，女性の７割が「友人・知人」を挙げている。２番目に多い相談相手は男女ともに「親」であり，男女ともに４割強が「親」を挙げている。３番目の相談相手は男女差で相違があり，男性では「職場の同僚や上司」であるのに対して，女性の場合には「兄弟姉妹」であった。結婚した年齢別では男女ともに30－34歳までは「友人・知人」を挙げる者が多い。

それでは相談相手の意見は結婚の決断に影響があったのだろうか。我々は次にこれを質問した。

表３－７－４はその回答の性別･結婚した年齢別に集計した結果である。これをみると，全体的には男女ともに相談相手の意見は結婚の決断に影響があったと回答した者が多い。男性では３分の２，女性では６割強が相談相手の意見は結婚の決断に影響があったと回答している。我々の調査ではどのように影響があったのかを明確に尋ねていない。しかし，我々は結婚をした人に対して質問をしているのであるから，結婚の決断を促す方向で影響があったと考えて差し支えないだろう。結婚した年齢別にみると，男性では20－24歳，女性では16－19歳で「なかった」が多いが，それ以上の年齢層では女性の40－44歳を除いて，男女ともに「あった」が「なかった」を大きく上回っている。

表３－７－３　悩みや問題を誰に相談したか

相談した相手		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
男性	友人・知人		5 50.0%	20 64.5%	10 71.4%		0 0%	35 62.5%
	職場の同僚や上司		4 40.0%	5 16.1%	4 28.6%		0 0%	13 23.2%
	兄弟姉妹		1 10.0%	2 6.5%	0 0%		0 0%	3 5.4%
	親		3 30.0%	12 38.7%	7 50.0%		1 100.0%	23 41.1%
	その他の人		0 0%	1 3.2%	0 0%		0 0%	1 1.8%
	合計	0	10	31	14	0	1	56
女性	友人・知人	1 33.3%	38 61.3%	62 77.5%	12 70.6%	1 20.0%	4 100.0%	118 69.0%
	職場の同僚や上司	0 0%	9 14.5%	17 21.3%	2 11.8%	1 20.0%	0 0%	29 17.0%
	兄弟姉妹	0 0%	14 22.6%	17 21.3%	6 35.3%	1 20.0%	1 25.0%	39 22.8%
	親	3 100.0%	21 33.9%	37 46.3%	11 64.7%	2 40.0%	1 25.0%	75 43.9%
	その他の親族	0 0%	4 6.5%	1 1.3%	0 0%	0 0%	0 0%	5 2.9%
	その他の人	0 0%	1 1.6%	1 1.3%	1 5.9%	0 0%	0 0%	3 1.8%
	合計	3	62	80	17	5	4	171

注：複数回答。パーセンテージと合計は設問に対する応答者数を基に計算されている。

表３－７－４　相談相手の意見は結婚の決断に影響があったか

影響の有無		結婚した年齢						合計
		16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
男性	あった		3 27.3%	24 77.4%	10 71.4%		1 100.0%	38 66.7%
	なかった		7 63.6%	7 22.6%	4 28.6%		0 0%	18 31.6%
	無回答		1 9.1%	0 0%	0 0%		0 0%	1 1.8%
	合計		11 100.0%	31 100.0%	14 100.0%		1 100.0%	57 100.0%
女性	あった	1 33.3%	40 63.5%	45 56.3%	13 76.5%	5 100.0%	1 25.0%	105 61.0%
	なかった	2 66.7%	23 36.5%	35 43.8%	4 23.5%	0 0%	3 75.0%	67 39.0%
	合計	3 100.0%	63 100.0%	80 100.0%	17 100.0%	5 100.0%	4 100.0%	172 100.0%

４．既婚女性のライフコース

４－１．結婚前に女性が考えていた理想のライフコース

出生は女性のライフコースと密接に関連している。そこで，未婚者を対象とした全国調査である「出生動向基本調査」の「独身者調査」は毎回，未婚女性がどのようなライフコースを選択しようとしているのかを探ることを重要な課題としている。ところが，夫婦世帯を対象とした全国調査では結婚前に女性がどのようなライフコースを選択しようとしているのかを調べていない。しかし，それは未婚女性の意識と既婚女性の意識を比較するために必要な調査項目であろう。このような関心から，我々は既婚女性が結婚前にどのようなライフコースを望み，また結婚後にどのようなライフコースが実現しようとしているのかを探ろうとした。

我々は「独身者調査」の調査票の質問項目に検討を加え，次の７つのライフコースを選択肢として提示した。①非婚就業コース＝結婚せず，仕事を一生続ける。②シングルマザー就業コース＝結婚せずに子どもをもち，仕事を続ける。③DINKSコース＝結婚するが子どもをもたず，仕事を一生続ける。④両立コース＝結婚し子どもをもつが，仕事も一生続ける。⑤再就職コース＝結婚し子どもをもつが，結婚あるいは出産の機会にいったん退職し，子育て後に再び仕事をもつ。⑥専業主婦コース＝結婚し子どもをもち，結婚あるいは出産の機会に退職し，その後は仕事をもたない。⑦無子専業主婦コース＝結婚するが子どもをもたず，結婚の機会に専業主婦になり，その後も仕事をもたない。

表４－１は「結婚前に女性が考えていた理想のライフコース」を結婚した年齢別に集計した結果である。これによると，全体的にはもっとも希望率が高かったライフコースは「再就職コース」の38.7％であった。２番目に希望率が高かったコースは「専業主婦コース」の26.4％であり，３番目は「両立コース」の25.0％であった。その他のライフコースを結婚前に理想としていた者はいずれも非常に少数であった。年齢別にみてもほぼ同じような傾向であるが，30－34歳では「両立コース」を結婚前に理想として

表４－１　結婚前に女性が考えていた理想のライフコース

結婚前の理想のライフコース	結婚した年齢						合計
	16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
非婚就業コース	1 25.0%	5 4.2%	3 2.4%	0 0%	2 18.2%	1 20.0%	12 4.1%
シングルマザー就業コース	0 0%	1 8%	2 1.6%	0 0%	1 9.1%	0 0%	4 1.4%
DINKSコース	0 0%	2 1.7%	2 1.6%	2 7.7%	0 0%	0 0%	6 2.1%
両立コース	0 0%	31 25.8%	30 23.8%	7 26.9%	3 27.3%	2 40.0%	73 25.0%
再就職コース	2 50.0%	46 38.3%	56 44.4%	7 26.9%	1 9.1%	1 20.0%	113 38.7%
専業主婦コース	1 25.0%	31 25.8%	32 25.4%	9 34.6%	3 27.3%	1 20.0%	77 26.4%
無子専業主婦コース	0 0%	4 3.3%	1 0.8%	1 3.8%	1 9.1%	0 0%	7 2.4%
合計	4 100.0%	120 100.0%	126 100.0%	26 100.0%	11 100.0%	5 100.0%	292 100.0%

いた者の割合がやや低くなっている。

結婚した年齢別にみると，結婚した年齢によって結婚前に理想としていたライフコースの割合に若干の相違がある。16－19歳，20－24歳，25－29歳で結婚した者では「再就職コース」はもっとも高い割合を占めるが，30－34歳，35－39歳，40－44歳で結婚した者ではその割合はやや低くなる。30－34歳と35－39歳で結婚した者では「専業主婦コース」や「無子専業主婦コース」を結婚前に理想のライフコースと考えていた者の割合が比較的高い。また35－39歳および40－44歳で結婚した者では「非婚就業コース」を結婚前に理想としていた者の割合も比較的高い。

４－２．既婚女性の実際に実現しそうなライフコース

以上は結婚前に女性が理想としていたライフコースであるが，それでは結婚後に実際に実現しそうな女性のライフコースはどのようなものであろうか。我々は次にこれを質問した。

表４－２－１は「既婚女性の実際に実現しそうなライフコース」を結婚した年齢別に集計した結果である。これによると，全体的にはもっとも希望率が高かったコースは「再就職コース」であり，半数以上（52.4%）がこれを選択した。２番目に希望が多かったコースは「両立コース」の26.7%であり，３番目は「専業主婦コース」の13.0%であった。結婚前に理想にしていたライフコースと比較すると「再就職コース」の割合が増加する一方で，「専業主婦コース」の割合は顕著に減少していることが分かる。

結婚した年齢別にみると，結婚した年齢によって実際に実現しそうなライフコースに若干の相違がある。16－19歳，20－24歳，25－29歳で結婚した者では「再就職コース」の割合がもっとも高いが，30－34歳ではそれはやや減少する。30－34歳および35－39歳で結婚した者では「両立コース」の割合が比較的高い。しかし，35歳以上で結婚した者になると「再就職コース」の割合は顕著に少なくなり，代わって「専業主婦コース」の割合が増えている。

表４－２－１　既婚女性の実際に実現しそうなライフコース

実際に実現しそうなライフコース	結婚した年齢						合計
	16-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
非婚就業コース	0 0%	1 0.8%	1 0.8%	0 0%	0 0%	0 0%	2 0.7%
シングルマザー就業コース	1 25.0%	1 0.8%	1 0.8%	0 0%	0 0%	0 0%	3 1.0%
DINKSコース	0 0%	4 3.3%	4 3.2%	0 0%	0 0%	1 20.0%	9 3.1%
両立コース	1 25.0%	25 20.8%	37 29.4%	11 42.3%	4 36.4%	0 0%	78 26.7%
再就職コース	2 50.0%	71 59.2%	66 52.4%	11 42.3%	2 18.2%	1 20.0%	153 52.4%
専業主婦コース	0 0%	14 11.7%	15 11.9%	3 11.5%	3 27.3%	3 60.0%	38 13.0%
無子専業主婦コース	0 0%	4 3.3%	1 0.8%	1 3.8%	2 18.2%	0 0%	8 2.7%
無回答	0 0%	0 0%	1 0.8%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.3%
合計	4 100.0%	120 100.0%	126 100.0%	26 100.0%	11 100.0%	5 100.0%	292 100.0%

表４－２－２は「結婚前に女性が考えていた理想のライフコース」と「既婚女性の実際に実現しそうなライフコース」とをクロス集計した結果である。これをみると,「理想と現実の一致」の度合いがもっとも高いものは「再就職コース」である。結婚前に「再就職コース」を理想としていた女性の３分の２近く（65.5%）がこれを実現している。次に実現の度合いが高いのは「両立コース」であり，46.6%がこれを実現している。逆に一致の度合いが低いのが「専業主婦コース」であり，４分の１程度（26.2%）しか結婚前の理想を実現していない。これは，専業主婦は望んでもなかなかこれを実現することが難しいことを示している。

表４－２－２　「結婚前に女性が考えていた理想のライフコース」と「既婚女性の実際に実現しそうなライフコース」とのクロス

実際に実現しそうなライフコース	結婚前に考えていた理想のライフコース						合　計
	非婚就業	シングルマザー就業	DINKS	両立	再就職	専業主婦	
非婚就業コース	0 0%	0 0%	0 0%	1 1.4%	1 0.9%	0 0%	2 0.7%
シングルマザー就業	0 0%	0 0%	0 0%	1 1.4%	1 0.9%	1 1.2%	3 1.0%
DINKSコース	1 8.3%	0 0%	1 16.7%	1 1.4%	5 4.4%	1 1.2%	9 3.1%
両立コース	6 50.0%	2 50.0%	2 33.3%	34 46.6%	17 15.0%	17 20.2%	78 26.7%
再就職コース	1 8.3%	2 50.0%	3 50.0%	31 42.5%	74 65.5%	42 50.0%	153 52.4%
専業主婦コース	4 33.3%	0 0%	0 0%	5 6.8%	15 13.3%	22 26.2%	46 15.8%
無回答	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 1.2%	1 0.3%
合計	12 100.0%	4 100.0%	6 100.0%	73 100.0%	113 100.0%	84 100.0%	292 100.0%

4－3．結婚前に妻となる女性に男性が望んでいたライフコース

我々の調査では，男性の既婚者に対し，結婚前に妻となる女性にどのようなライフコースを望んでいたかを尋ねている。そのねらいは既婚女性の実際に実現しそうなライフコースと比較することである。

表4－3－1は「結婚前に妻となる女性に男性が望んでいたライフコース」を性別・結婚した年齢別に集計した結果である。これによると，全体的には「再就職コース」がもっとも希望率が高く，46.0%であった。2番目に大きな割合であったのは「両立コース」の22.7%であり，3番目は「専業主婦コース」の19.3%であった。7割の男性が妻となる女性に就業を望んでいたことはやはり注目すべき結果であろう。逆に専業主婦になることを望んでいた男性は2割であった。結婚した年齢別にみると，30－34歳で結婚した男性では「再就職コース」を望んでいた者が64.5%と，とくに大きな割合を示している。逆にこの年齢で結婚した者では「専業主婦コース」を望んでいた者は9.7%に過ぎない。

表4－3－1　結婚前に妻となる女性に男性が望んでいたライフコース

妻となる女性に希望していたライフコース	結婚した年齢					合計
	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	
DINKSコース	0 0%	1 1.3%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.7%
両立コース	5 16.7%	21 27.3%	6 19.4%	2 20.0%	0 0%	34 22.7%
再就職コース	13 43.3%	30 39.0%	20 64.5%	4 40.0%	2 100.0%	69 46.0%
専業主婦コース	6 20.0%	16 20.8%	3 9.7%	4 40.0%	0 0%	29 19.3%
無子専業主婦コース	1 3.3%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.7%
無回答	5 16.7%	9 11.7%	2 6.5%	0 0%	0 0%	16 10.7%
合計	30 100.0%	77 100.0%	31 100.0%	10 100.0%	2 100.0%	150 100.0%

表４－３－２は「結婚前に妻となる女性に男性が望んでいたライフコース」と「実際に実現しそうな妻のライフコース」をクロス集計した結果である。これをみると，興味深い傾向を読み取れる。「DINKSコース」，「両立コース」，「再就職コース」など配偶者に就業を望んでいた者ではおおむね実際にも妻の就業が実現しそうだという見通しをもっている。たとえば，「再就職コース」を望んでいた男性では，実際に「再就職コース」が実現しそうだと回答した者が73.9％である。「DINKSコース」と「両立コース」を含めると，結婚前に配偶者に就業を望んでいた者の86.9％が実際に妻の就業が実現する見通しをもっている。しかし，「専業主婦コース」を妻となる女性に望んでいた者ではそれが実際に実現しそうだという見通しをもっている者は３分の１程度である。つまり，我々の調査データでは，結婚前に男性が専業主婦コースを妻となる女性に望んだとしても，それを実際に実現できる者は少ないことが明らかになっている。このこともまた専業主婦の実現の難しさを示しており，注目すべき結果である。

表４－３－２　「結婚前に妻となる女性に男性が望んでいたライフコース」と「実際に実現しそうな妻のライフコース」とのクロス

実際に実現しそうな妻のライフコース	結婚前に妻となる女性に男性が望んでいたライフコース					合計
	DINKS	両立	再就職	専業主婦	無回答	
DINKSコース	0 0%	2 5.9%	2 2.9%	0 0%	0 0%	4 2.7%
両立コース	1 100.0%	18 52.9%	7 10.1%	2 6.9%	1 7.1%	29 19.7%
再就職コース	0 0%	10 29.4%	51 73.9%	17 58.6%	0 0%	78 53.1%
専業主婦コース	0 0%	3 8.8%	9 13.0%	9 31.0%	0 0%	21 14.3%
無子専業主婦コース	0 0%	0 0%	0 0%	1 3.4%	0 0%	1 0.7%
無回答	0 0%	1 2.9%	0 0%	0 0%	13 92.9%	14 9.5%
合計	1 100.0%	34 100.0%	69 100.0%	29 100.0%	14 100.0%	147 100.0%

5．既婚者とはどのような人びとか

既婚者とはどのような人びとなのか。彼らはどのような結婚をしたのか。我々の調査によって明らかになった事柄をまとめたい。

①既婚者の大半は結婚前に正規雇用職に就き，正規雇用者と知り合い，結婚していた。

始めに述べたように，近年の研究では所得水準や雇用形態と結婚の実現に強い関連性があることが主張されている。我々の調査では所得水準との関係を調べることはできなかったが，雇用形態と結婚との間に強い関係があることは確かめられた。

第１に既婚者の大多数は結婚当時に男女ともに正規雇用の職に就いて仕事をしていた。とくに男性ではその傾向が強い。女性では結婚当時に無職であった者は若干いるが，男性では結婚当時に無職であった者は皆無である。第２に既婚者の大半は男女ともに正規雇用者と知り合い，その後に結婚した。女性ではとくにその傾向が強い。第３にその結果として既婚者のカップルには正規雇用者だった者どうしの組み合わせがもっとも多い。

表５－１は回答者の結婚当時の就労状況と現在の就労状況とをクロス集計した結果である。これをみると，男性では結婚当時に正規雇用の仕事に従事していた者の大多数は，現在も正規雇用で仕事を続けている。また結婚当時に非正規（パート・アルバイトや派遣・契約）の仕事をしていた者も現在ではすべて正規雇用の仕事に就いている。女性の場合には，結婚当時に正規雇用であった者は現在，正規雇用職の継続が３割，非正規の仕事に従事する者が４割，無職者が４分の１に分かれている。

表５－２は知り合った当時の配偶者の就労状況と現在の就労状況とをクロス集計した結果である。これをみると，女性の結婚相手の大多数は知り合った当時に正規雇用者であり，結婚後の現在でも彼らの大多数は正規雇用の職を続けている。また知り合った当時に非正規雇用者や学生であった者も現在ではその大半が正規雇用者になっている。これに対し，男性の結婚相手で知り合った当時に正規雇用者であった女性は，現在の就労状況では正規雇用の継続，非正規の仕事に従事，無職にほぼ三等分される。

表５－１　回答者の結婚当時の就労状況と現在の就労状況

回答者の現在の就労状況		回答者の結婚当時の就労状況							合計
		正規の職員・社員	パート・アルバイト	派遣・契約	自営・家族従業員	無職	学生	その他	
男性	正規の職員・社員	118 92.2%	4 100.0%	4 100.0%	1 16.7%		2 33.3%	1 50.0%	130 86.7%
	派遣・契約・嘱託	2 1.6%	0 0%	0 0%	0 0%		0 0%	0 0%	2 1.3%
	パート・アルバイト	1 0.8%	0 0%	0 0%	0 0%		3 50.0%	0 0%	4 2.7%
	自営業・家族従業員	6 4.7%	0 0%	0 0%	5 83.3%		1 16.7%	0 0%	12 8.0%
	無職	1 0.8%	0 0%	0 0%	0 0%		0 0%	0 0%	1 0.7%
	無回答	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%		0 0%	1 50.0%	1 0.7%
	合計	128 100.0%	4 100.0%	4 100.0%	6 100.0%		6 100.0%	2 100.0%	150 100.0%
女性	正規の職員・社員	66 30.6%	2 6.7%	4 23.5%	0 0%	0 0%	3 25.0%	0 0%	75 25.7%
	派遣・契約・嘱託	17 7.9%	2 6.7%	2 11.8%	2 40.0%	0 0%	1 8.3%	1 50.0%	25 8.6%
	パート・アルバイト	67 31.0%	12 40.0%	4 23.5%	0 0%	2 20.0%	3 25.0%	1 50.0%	89 30.5%
	自営業・家族従業員	5 2.3%	2 6.7%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	7 2.4%
	内職・在宅勤務	4 1.9%	0 0%	2 11.8%	0 0%	1 10.0%	1 8.3%	0 0%	8 2.7%
	その他	2 0.9%	1 3.3%	0 0%	0 0%	0 0%	1 8.3%	0 0%	4 1.4%
	学生	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 8.3%	0 0%	1 0.3%
	無職	55 25.5%	11 36.7%	5 29.4%	3 60.0%	7 70.0%	2 16.7%	0 0%	83 28.4%
	合計	216 100.0%	30 100.0%	17 100.0%	5 100.0%	10 100.0%	12 100.0%	2 100.0%	292 100.0%

表５－２　知り合った当時の配偶者の就労状況と現在の就労状況

配偶者の現在の就労状況		知り合った当時の配偶者の就労状況						合　計
		正規の職員・社員	パート・アルバイト	派遣・契約	自営・家族従業員	学生	無回答	
男性	正規の職員・社員	33 34.4%	0 0%	0 0%	0 0%	5 33.3%	2 40.0%	40 27.2%
	派遣・契約・嘱託	2 2.1%	0 0%	4 40.0%	0 0%	0 0%	0 0%	6 4.1%
	パート・アルバイト	28 29.2%	11 57.9%	2 20.0%	0 0%	5 33.3%	0 0%	46 31.3%
	自営業・家族従業員	0 0%	0 0%	0 0%	1 50.0%	2 13.3%	1 20.0%	4 2.7%
	内職・在宅勤務	1 1.0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.7%
	その他	1 1.0%	1 5.3%	1 10.0%	0 0%	0 0%	0 0%	3 2.0%
	無職	30 31.3%	6 31.6%	3 30.0%	1 50.0%	3 20.0%	2 40.0%	45 30.6%
	無回答	1 1.0%	1 5.3%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 1.4%
	合計	96 100.0%	19 100.0%	10 100.0%	2 100.0%	15 100.0%	5 100.0%	147 100.0%
女性	正規の職員・社員	198 90.0%	7 77.8%	6 100.0%	4 28.6%	18 90.0%	6 75.0%	239 86.3%
	派遣・契約・嘱託	6 2.7%	1 11.1%	0 0%	0 0%	0 0%	1 12.5%	8 2.9%
	パート・アルバイト	2 0.9%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 0.7%
	自営業・家族従業員	11 5.0%	1 11.1%	0 0%	10 71.4%	1 5.0%	1 12.5%	24 8.7%
	無職	1 0.5%	0 0%	0 0%	0 0%	1 5.0%	0 0%	2 0.7%
	無回答	2 0.9%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 0.7%
	合計	220 100.0%	9 100.0%	6 100.0%	14 100.0%	20 100.0%	8 100.0%	277 100.0%

②既婚者は強い結婚意欲とともに柔軟な結婚観をもっていた。

我々の調査の結果では，結婚相手と交際する前に有していた生涯の結婚に対する意欲については，「いずれ結婚するつもり」と考えていた者が男女ともに90％を超えていた。2010年の「出生動向基本調査」の「独身者調査」の結果と比較すると，男性ではやや高い割合を示し，女性では同程度であった。結婚した者が結婚する前に強い結婚の意欲をもっていたことは驚くべきことではない。しかし，注目すべきことは「一生結婚するつもりはない」と回答した者が男女ともに１割弱ほどいたことである。彼らは独身時代の一時期には結婚をする意思はなかったが，結婚相手と交際を始めた後に，何らかの事情でこれを覆し，結婚するに至った。この点で彼らは結婚を柔軟に考えることができた人びとであった。

③既婚者には結婚相手と知り合う前に異性との交際経験や恋愛経験をもっていた者が多い。

我々の調査の結果では，男性の６割，女性の７割半が結婚相手と交際する前に別の交際相手をもっていた。つまり，独身時代に異性との交際状況が比較的活発であった者が多い。これは，「出生動向基本調査」で明らかにされている未婚者の交際状況の低調さと好対照をなす事実である。

④既婚者には日常生活上の出会いで結婚相手と知り合った者が多い。

結婚相手と知り合ったきっかけでは，男女ともに「職場や仕事の関係で」，「友人・知人の紹介で」，「学校で」の順で多く，この３つで大半の要因を構成する。これは全国調査である「出生動向基本調査」の結果とも一致する傾向であった。また全体的にみた場合，既婚者には婚活に頼らずに交際相手を見つけることができた者が多い。結婚相手と知り合う前に交際相手がいなかった者で，「交際相手を見つけるために積極的な活動をした」者は男女ともに少数派であった。それは男性の場合に18.8％，女性の場合に23.3％にとどまった。

⑤25－34歳で結婚した者では意図的な結婚活動で結婚相手と知り合った者が比較的多い。

我々の調査の結果では，25－34歳で結婚した者では，いわゆる「婚活」によって結婚相手と知り合った者が比較的多い。結婚した年齢別にみた場合，「見合いで」「結婚相談所や結婚情報サービスで」「合コンで」を合計した割合は，男性の25－29歳で18.2%，30－34歳で22.6%，女性の25－29歳で16.7%，30－34歳で42.2%である。とくに30－34歳で結婚した女性では「見合いで」相手と知り合った者が３分の１（34.6%）と高い割合を占めている。男女ともに25－34歳で結婚した者では「婚活」が結婚相手と知り合う手段として重要な役割を果たしている。その中でも「見合い」の役割は大きい。

⑥既婚者の大半は「相手と一緒に暮らしたいと思った」ことをきっかけとして結婚を決めていた。

我々の調査の結果では，既婚者が最終的に結婚を決めたきっかけについては，「相手と一緒に暮らしたいと思ったので」がもっとも多く，３分の２（66.7%）の回答者がこれを選択した。つまり，交際相手とより密接に結びついた生活をしたいと思ったことが最大の要因になっている。これは，「結婚を決めたときに考えた最大の利点」の回答で「好きな人と一緒に暮らせる」の割合がもっとも高かったことと整合する結果である。これと比べると他の要因はずっと選択率が低くなるが，２番目に「自分の年齢を考えて」(31.3%)，３番目に「この機会を逃したくないと思ったので」(28.0%)，４番目に「相手の年齢を考えて」(22.7%)，５番目に「家族･子どもが欲しくなったので」と「交際期間の長さを考えて」(17.3%)，７番目に「子どもができたので」(12.7%）であった。

⑦既婚者にとって「結婚相手の条件」は第一に「性格・人柄がよい」であり，第二に「一緒にいると楽しい」であった。

我々の調査の結果では，「結婚相手の条件」としては，男性の７割，女性の８割が「性格・人柄がよい」を挙げ，次に男女ともに６割を超える者が「一緒にいると楽しい」を挙げた。これに加えて，「趣味や価値観が合う」が男性では３番目に多く，女性でも４番目に多い。既婚者にとっては，自

分との「相性のよさ」が「結婚相手の条件」を構成する。

しかし，女性の「結婚相手の条件」では「安定した仕事に就いている」と「経済力がある」の割合を合計すると５割を占めた。男性ではこれらの合計は１割であった。このことはやはり注目すべき事実であろう。また女性の場合では男性の場合に比べて「好みの容姿・ルックスである」の割合は20ポイントも低く，15.1％であった。女性は男性ほど容姿や容貌を結婚の条件として重視していない。このこともまた見逃すことができない傾向であろう。

⑧既婚者の大多数は結婚相手の短所や欠点を受け入れていた。

我々の調査は「結婚を決めたとき結婚相手の短所や欠点をどう思ったか」を既婚者に尋ねたが，その結果によると，全体的には男女ともに圧倒的多数の者は結婚相手の短所や欠点を許容していた。明確な拒否反応である「気になるのでぜひ直してもらいたいと思った」と答えた者は男女ともに１割以下にとどまった。結婚した人びとは結婚相手の短所や欠点に対して寛容な態度を示している。男性では「長所の方が短所や欠点を上回っているので気にはならなかった」と「見方を変えれば短所は長所でもあると思った」を合計すると半数を超え，「プラス思考」で相手の短所や欠点を受け入れた者が多かった。ただし，女性では「プラス思考」の者は41.8％であり，「気にはなったが，ある程度は我慢できると思った」が47.8％とこれを上回っている。この点に若干の男女差を見出すことはできる。しかし，相手の短所や欠点に明確な拒否反応を示していた人は少ない点では結婚した男女は共通の特徴を示している。

さらに「結婚相手と交際する前の結婚に対する考え方」と「結婚相手の短所や欠点をどう思ったか」をクロス集計したところ，男性では，結婚に対する考え方によって回答の仕方に大きな相違はみられなかった。しかし，女性では「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」と考えていた者であっても，「長所の方が短所や欠点を上回っているので気にはならなかった」ないし「見方を変えれば，短所は長所でもあると

思った」と回答した者が比較的多く，両者を合計すると６割近い。つまり，かつて結婚に対して「理想重視派」の考えであった者は「プラス思考」で相手の短所や欠点を受け入れた者が多い。これは意外な結果である。しかし，これは，かつて「理想重視派」であっても結婚した人の中には柔軟な発想で相手の短所や欠点をみることができた人が多いことを示唆している。

⑨結婚を決めたとき，既婚者の大半は結婚相手を「理想の相手」というよりも「似合いの相手」と考えていた。

我々の調査では「結婚を決めたとき結婚相手を自分にとってどのように考えていたか」を既婚者に尋ね,「理想の相手」と「似合いの相手」の二者択一で回答を求めた。その結果では，男性の７割，女性の75％が「似合いの相手」と回答した。これに対して結婚相手を「理想の相手である」と回答した者は男性で28.0％，女性で22％であった。男女ともに大半の者は結婚相手を自分にとって「似合いの相手」だと考えていた。結婚した年齢別にみても，どの年齢層でもほぼ同じ傾向を見出せた。また「結婚相手と交際する前の結婚に対する考え方」と「結婚を決めたとき結婚相手を自分にとってどのように考えていたか」をクロス集計したところ,「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」と考えていた者でも,「似合いの相手」と回答する者が多かった。

⑩ライフコースの点では結婚をした女性の大半は就業の継続ないし再就職を結婚前に希望し，また実際にも結婚後に何らかの形で就業していた。結婚前に専業主婦を理想としていた既婚女性は少数派であり，また結婚後の実現率はもっとも低かった。

「結婚前に女性が考えていた理想のライフコース」と「既婚女性の実際に実現しそうなライフコース」とをクロス集計した結果をみると，理想と現実の一致の度合いがもっとも高いのは「再就職コース」であった。結婚前に「再就職コース」を理想としていた女性の３分の２程度（65.5％）がこれを実現していた。次に実現の度合いが高いのは「両立コース」であり，

半数近く(46.6%)がこれを実現していた。逆に実現の度合いが低いのが「専業主婦コース」であり，４分の１程度（26.2%）しかこれを実現していなかった。これは，専業主婦は望んでも実現が難しいことを示している。

また「結婚前に妻となる女性に男性が望んでいたライフコース」と「実際に実現しそうな妻のライフコース」をクロス集計したところ，「DINKSコース」，「両立コース」，「再就職コース」など妻の就業を望んでいた者ではおおむね実際にも妻の就業が実現しそうだという見通しをもっている。しかし，「専業主婦コース」を妻となる女性に望んでいた者ではそれが実際に実現しそうだという見通しをもっている者は３分の１程度である。つまり，我々の調査データでは，結婚前に男性が専業主婦コースを妻となる女性に望んだとしても，それを実際に実現できる者は少ないことが明らかになっている。このこともまた専業主婦の実現の難しさを示している。

以上の結果を踏まえて，未婚と結婚を分ける要因，とくに結婚を促進する要因を考えてみたい。

最初に言えることは，男性の場合にはやはり「一定の経済力」を有することが結婚の前提条件になっていることである。我々の調査では先行研究のように年収の金額で経済力を示すことはできなかった。しかし，男性既婚者の大多数が結婚当時に正規雇用者であり，女性既婚者の大多数が知り合った当時に正規雇用者であった者と結婚していた。また結婚当時に非正規雇用者であった男性，女性既婚者の配偶者で知り合った当時に非正規雇用であった男性のほとんどはその後に正規雇用者に変わっていた。このことから安定した職業に就職することが結婚の必須の条件となっていることがわかり，この点で「一定の経済力」が結婚の前提条件となっていると想定される。

しかし，経済力だけで結婚が実現しているのかといえば，やはりそうではない。結婚の実現にはいくつかの付加的な促進要因があるように見える。その第１の要因は異性との交際能力である。それは次のような調査結果から想定される。⑴既婚者には結婚相手と知り合う前に異性との交際経

験や恋愛経験をもっていた者が多いこと，⑵既婚者には日常生活上の出会いで結婚相手と知り合った者が非常に多いこと，⑶結婚相手と知り合う前に交際相手がいなかった者の中で交際相手を見つけるために意図的な活動をした者は男女ともに少数派であったが，彼らの活動は非常に高い成果を上げていることである。

第２の要因は男女ともに交際相手の情緒的な欲求を満足させる魅力を有することである。これは「恋愛結婚」が結婚の標準になった現代では必須の要件であると考えられる。それは，典型的には「一緒に暮らしたい」と交際相手に思わせるような魅力である。そのためには，「性格・人柄がよい」「一緒にいると楽しい」など交際相手に「自分との相性がよい」と思わせる資質があることが求められている。

第３の要因は結婚相手の短所や欠点を許容する能力である。とくに「プラス思考」で相手の短所や欠点を受け入れる発想をとれることである。結婚した人びとはおおむね結婚相手の短所や欠点に対して寛容な態度を示していた。とくに「プラス思考」で相手の短所や欠点を考えていた者が多い。

第４の要因は第三者的な観点から結婚相手を「自分にふさわしい」と判断できる能力である。いいかえると，それは「似合いの相手」を見分ける能力である。我々の調査の結果では大半の既婚者は結婚を決めた当時に相手を「理想の相手」ではなく，「似合いの相手」だと考えていた。

第５の要因は女性の側に一定の就職能力と就業意思があることである。我々の調査の結果では回答者の既婚女性の大多数は結婚相手と知り合ったときに仕事（とくに正規雇用の仕事）をしていた。回答者の既婚男性が配偶者に選んだ女性の大多数は知り合った当時に仕事（とくに正規雇用の仕事）をしていた[18]。ライフコースの点では既婚女性の大半は就業の継続ないし再就職を結婚前に希望し，また結婚後に何らかの形で就業していた。結婚前に専業主婦を理想としていた既婚女性は少数派であり，また結婚後の実現率はもっとも低かった。このことは現代社会では結婚を実現するには女性の側にも一定の就職能力と就業意思が必要とされてきていることを

示唆する。逆に言えば，女性が専業主婦を理想とし，この理想の実現にこだわって配偶者選択をすると結婚は困難になる。

もちろん，これらの要因は今回の調査の結果に基づいて想定した仮説的な要因である。それらはどの程度の妥当性を有するのか。改めて調査を設計し，検証をおこなうことを今後の課題としたい。

参照文献

材木和雄（2010），「結婚難の深化と婚活支援の必要性」，『社会文化論集』８号。

国立社会保障・人口問題研究所（2011ａ），「第14回出生動向基本調査・結婚と出産に関する全国調査・夫婦調査の概要」，2011年10月21日公表（http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou14/doukou14.asp）

国立社会保障・人口問題研究所（2011ｂ），「第14回出生動向基本調査・結婚と出産に関する全国調査・独身者調査の概要」，2011年11月25日公表（http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou14_s/doukou14_s.asp）

岩澤美帆・三田房美（2005），「職縁結婚の盛衰と未婚化の進展」，日本労働研究雑誌，535号。

山田昌弘（1996），『結婚の社会学－未婚化・晩婚化はつづくのか』，丸善ライブラリー。

山田昌弘（2004），『パラサイト社会のゆくえ』，筑摩書房。

山田昌弘（2005），「未婚化の原因」，中央公論2005年12月号。

厚生労働省（2011），「第８回21世紀成年者縦断調査（国民の生活に関する継続調査）結果の概況」

注

1　代表的な研究として，岩澤美帆・三田房美，2005がある。このことについては，前稿で詳しく述べた。材木和雄，2010を参照。

2　この説明の代表的な主張者は山田昌弘である。山田昌弘，1996，同，

2005を参照。

3　この表に示されているように，青森では結婚相手となる男性に400－600万円の年収を求める未婚女性は39.8％であるのに対し，同世代の未婚男性の中には年収が400－600万円の者は1.7％しかいない。また男性に600万円以上の年収を求める未婚女性は13.6％いるが，同世代の未婚男性の中には年収が600万円以上の者は0.9％にすぎない。東京では未婚女性の年収期待はもっと大きくなり，結婚相手となる男性に600万円以上の年収を求める未婚女性は39.2％に達する。しかし，実際には同世代の未婚男性の中には年収が600万円以上の者は3.5％しかいない。

4　調査は2010年９月から10月にインターネットによって実施され，事前にモニターとして登録された全国各地の20－30歳代の未婚男女および結婚３年以内の男女計１万人が調査対象になったという。

5　これに対し，女性の場合には年収が低い既婚率も低くなるわけではない。むしろ，年収が低くても既婚率は比較的高い。たとえば，表１－７をみると，女性の20歳代では年収300万円未満の既婚率は25.7％であり，これは年収300－400万円の既婚率16.2％，年収400－500万円の既婚率22.7％よりも高い。女性の30歳代では年収300万円未満の既婚率は35.7％であり，これは年収別にみた場合にもっとも高い割合を示している。

6　なお上述の調査データにおいて，女性の場合には男性にみられたような年収，雇用形態と結婚・交際状況との相関関係が明確にみられない。たとえば，年収300万円未満であっても既婚率が低いわけではない。むしろ20歳代,30歳代ともに年収300万円以上の層と比べて既婚率は高い。これは女性の場合には経済力が結婚の条件とならないことを示唆している。

7　たとえば，「男性の結婚，年収300万円の壁，内閣府調査――下回ると10％未満」『日本経済新聞』朝刊2011年５月12日，「年収300万円，男性の結婚分岐点　内閣府調査」『朝日新聞』朝刊2011年５月12日，「年収300万円が男性の結婚境界線？届かぬ非正規　対策急務に」『東京新聞』朝刊2011年６月19日。

8　上記の東京新聞の記事は，厚生労働省の「賃金構造基本統計調査（2010年）」から20歳代，30歳代の年間賃金（所定内給与×12＋賞与など，企業規模は10人以上）を雇用形態別に計算している。それによると，正規雇用では20－24歳で年間賃金284万円と300万円未満であったが，25歳からは350万円を超えていた。一方，非正規雇用では25－29歳で248万円，35－39歳でも290万円と，結婚境界線とみなされる300万円に届かない。そのため，同紙記事は「結果的に20代，30代の非正規雇用の男性は年間賃金が300万円に届かず，結婚できにくいという（内閣府の）調査が裏付けられている」と結論している。

9　このうち質問紙法を用いた調査研究として代表的なものは，すでに紹介した国立社会保障・人口問題研究所の「出生動向基本調査」である。

10　既婚者の結婚過程を調べた代表的な調査は「国立社会保障・人口問題研究所」が定期的に実施する『出生動向基本調査』である。これは先行研究として重要であり，参考になる。しかし，この調査は夫婦の結婚過程よりも「出生力」に大きな重点を置いて設計されている。その結果，報告書においても夫婦の結婚過程に関する記述は最初の１章のみであり，結婚のタイミングと出会いの場，学歴の組み合わせに関する調査結果が紹介されているにすぎない。残りの章の大半は出生・出産に関わる調査項目の集計結果の紹介に割かれている。たとえば，国立社会保障・人口問題研究所「平成17年・わが国夫婦の結婚過程と出生力－第13回出生動向基本調査」，厚生統計協会，2007年を参照。

11　広島大学総合科学部社会文化プログラムでは毎年，社会調査士の資格取得に関係した実習的科目を２コマ（４単位）開講している。「社会環境調査Ⅰ」と「社会環境調査Ⅱ」がそうである。今回の調査はこの授業の一環であり，「少子化対策としての結婚促進策立案のための意識調査」として実施された。

調査にご協力いただいた方々，とくに面倒な調査票にご回答をしていただいた方々にここで改めてお礼を申し上げたい。この論文は調査結果

の公開作業の一環である。

なお東広島市は広島県の中央部に位置し，2010年の国勢調査の時点での人口は190043人。広島大学・近畿大学工学部などを中心にした学園都市であるが，広島中央テクノポリスの指定を受けてハイテク産業の集積があり，また隣接する広島市のベッドタウンにもなっている。1995年から2010年の人口増加率は115.07%，近年は一貫して人口が増加している。

12　このうち，男性の既婚者の中には離婚した者が３名含まれる。女性の既婚者の中には「婚約中の者」が２名，離婚した者が13名，配偶者と死別した者が１名含まれる。

13　未婚者に対する質問項目を含めた集計結果は次の報告書にまとめた。『未婚と結婚の分かれ目－社会環境調査Ⅰ・社会環境調査Ⅱ実施報告書－』，広島大学総合科学部社会文化プログラム，2011年。

14　「独身者調査」では10の選択項目を用意しているが，このうち「結婚しない理由」に分類されるのは次の５つである。「結婚するにはまだ若すぎるから」，「結婚する必然性をまだ感じないから」，「今は仕事（学業）にうちこみたいから」，「今は趣味や娯楽を楽しみたいから」，「独身の自由や気楽さを失いたくないから」。「結婚できない理由」に分類されるのは次の５つの項目である。「適当な相手にまだめぐり会わないから」，「異性とうまくつき合えないから」，「結婚資金が足りないから」，「結婚生活のための住居のめどがたたないから」，「親や周囲が結婚に同意しない（だろう）から」。

15　18－34歳の未婚者のうち，何%の者が各項目を主要な結婚の利点（二つまで選択）として考えているかを示す数字である。

16　婚活の困難さについては，前稿で詳しく述べた（材木，2010，pp. 162－164）。

17　「出生動向基本調査」と我々の調査は調査の設計が異なる。第一に「出生動向基本調査」は「夫婦世帯」を対象とし，「夫妻が最終的に結婚を決めたときの直接のきっかけは何か」を尋ねている。これに対し我々

の調査では個人を対象とし，それぞれの回答者が最終的に結婚を決めた要因を尋ねている。第二に「出生動向基本調査」では回答は二つまで選んでよいことになっているが，我々の調査ではいくつでも選択してよいこととした。それゆえ，二つの調査結果は単純に比較できない。このことを注意する必要がある。

18　女性が就業しているとなぜ結婚しやすくなるのか。それは今後に検討と検証が必要な問題である。しかし，たとえば，職場や仕事を通じた出会いのチャンスが多くなることや仕事を通して人格的に陶冶される，視野が広がることなどが考えられる。